

インターカルチャー

INTERCULTURE

NO.62

1999年3月号
MARCH



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

大阪国際文化中学校・高等学校 Osaka Intercultural Academy (OIA) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)
〒562-0032 箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 0727-27-5050 FAX 0727-27-5055 URL <http://www.sisf.minoh.osaka.jp>

大阪国際文化中学校・高等学校
Osaka Intercultural Academy
(OIA)

は、1999年4月より、
千里国際学園中等部・高等部
Senri International School (SIS)
に校名変更いたします。

祝！第6期生73名卒業

高校卒業論文発表

99年度中等部高等部入試結果報告

APAC女子サッカー優勝



撮影 斉藤 数（理科）

校長 1 年を終えて

福田國彌

学園長・OIA 校長

このたび校長兼務 1 年をもって兼務を解いていただくことにしました。全く身勝手なお願いで、皆様には深くお詫びします。4 月からは、大迫副校長先生を校長先生にお願いし、平尾先生と井嶋先生に教頭先生になって頂き、私は学園長として引き続き学園全体の運営の仕事をいたします。よろしくお願いいたします。

この 1 年間は、1999 年秋からの施行を目指して、SIS（4 月からの新校名の略称＝現 OIA）と OIS との共通学校カレンダー、3 学期制、さらに時間割のブロックシステムと具体的な授業時間の編成等々、全学園あげて先生方には随分協力をしていただきました。お蔭様で、すでに保護者の皆様にも御説明しましたように事柄は順調に進捗し、本年 4 月から夏までの過渡期のプログラムを含めて生徒の皆さんの理解もえられたものと思っています。とくに SIS の方は授業施行の方法が大きく変わるので、十分な履修指導によって混乱が起こらないように先生方に十分な配慮をお願いしています。

今回の作業は、本来極めて複雑な学園の教育をどのようなシステムにして、充実した教育が実施できるかという課題を解決するために行ったものです。

一般生徒の春の入学、帰国生徒の春・秋・冬学期の編入、しかも現地校等で受ける教育課程の多様さ、さらには SIS と OIS との合同授業、SIS と OIS との間の授業時間枠の違い等々、複雑さを増す要素は多々あったのですが、今回の学期完結制の教育はこれらの複雑さを解消し、かつ選択幅の拡大を可能にし、生徒の皆さんの個性教育を伸ばすうえで大いに役立つと思っています。

これまでの日本の中等教育（中学校・高等学校の教育）は非常に画一

的で、同学年の生徒に一律かつ一斉の教育が行われてきました。本来、生徒の才能の種類は早くから、小学校の後期あるいは中学生の初期から顕著に現われます。そうした才能の違いを丁寧にあとづけて、それぞれの才能を伸ばすことが大切です。また、一斉に詰め込むことは、生徒たちの知的活動を阻害して、知的な能力を痩せさせてしまいます。それぞれの個性と才能を大切にしながら、知的に肥らせる、思考力を養う、将来才能を開花させるために充分な潜在力を貯えてもらうことが大切だと思っています。

われわれの今回始める新しい教育制度はきっとこうした教育の基本的な要請を満足すると思います。生徒の皆さんも、保護者の方々も、きっとよかったと思って頂けると思います。OIS の先生方も校長先生、教頭先生ほか皆さんが SIS の考え方に協力して頂きました。教員一同大いに努力し、生徒の皆さんとさらに明るく楽しく勉学できる学園にしたいものと思っています。

早春 3 月は 12 年生（高校 3 年生）の卒業です。卒業生のみんなが、ひとりひとり、希望にあふれて輝く未来に向かって歩んで行く・・・、老年のわたしには羨ましく、眩くさえあります。

石^{いわ}ばしる垂^{たる}み水の上のさわらびの萌え出づる春^{しきの}になり^のにけるかも（萬葉集巻八、志貴皇子の懽の御歌）

在学中の皆さんも、やがて次々と卒業して大学に進み、社会人となり、それぞれ自分の仕事を通して 21 世紀の社会の創造に参加します。若い人たちの門出のときにわたしはいつも次の詩句を思い浮べます。



2/8に79歳の誕生日を迎えられた福田学園長

春秋多佳日 登高賦新詩（陶淵明）

陶淵明は中国の東晋から宋の時代（約1550年昔）の詩人で、この詩句は「移居」と題する詩、轉居先の「南村」での人々との長閑な生活を歌ったものです。しかし、わたしは次のような意（こころ）をこめて早春の饒の言葉にします。

「みなさんの未来は春秋に富んでいます。その春秋に佳き日が多くありますように。みなさんは目標に向ってそれぞれの道を辿って高きに到達し、素晴らしい人間存在という詩を作ってください。」

20世紀は多くの難問を未解決のまま21世紀に遺しました。そのなかでも、人間の創る環境が人間自身を含む生態系を破壊するという事実は、単なるアボリア(aporia)哲学上の難問、あるいはアンチノミア(antinomia)二律背反としてすますことのできない問題です。

この難問は人間のあらゆる営みと関係し、したがってあらゆる営みによって解決して行かねばならないと考えられます。21世紀がどんな時の流れを作るか・・・時代の流れが1人1人の生活と理想を押し潰すのではなく、1人1人の生活と理想が難問を解決して新しい時の流れを作るのであって欲しいものだと思います。

理想と志と

大迫弘和
OIA副校長

だいせんじがけだらなよさ
Tの詩を思い出したりします
その後あなたは どうして いますか
かすできんげ かすできんげ
(浅木未知『さよならのきせつに』)

「大阪国際文化中学校・高等学校」
さようならにはつきものの少し抒情的な思いがあります。8年という年月が過ぎていきました。高等学校の卒業生はこの3月に卒業していく皆さんを含め386名になりました。小さな、そして確かな歴史。小さな歴史を見つめつつ、この学校に関わったすべての人たちとともに、一つのさようならと一つの誕生を、喜びをもって迎えたいと思うのです。

「千里国際学園中等部・高等部」
玄関のプレートも春休み中に変わります。新しいプレートが、朝日を受けて、キラッと光るのを、楽しみにしています。

2月8日、12日の保護者説明会には多数のご参加をいただきましてありがとうございました。会の目的は2月に進行しました99年春学期の科目履修にあたって、ご家庭からも、お子様に対して必要なアドバイスができるよう、今回の改革の原点から具体的内容までを説明させていただくことでした。初めて実際の時間割を示させていただきました。そして『Course Descriptions (開講科目一覧)』を開きつつ、授業の内容についても、正式に公開させていただきました。

履修希望人数が多くなった場合の対応(1クラス予定を2クラスにしたりという柔軟な対応も考えていますが、場合によっては次の学期まで履修を待ってもらうことはありえます)、先の学期までの予定を立てながら履修を決定する中で一旦示した

先の学期の履修について変更はどの程度可能なのか(一人一人の状況を丁寧に見ていく中、必要なものは認めていきます)、といったような皆さんが共通して心配なさっている点について、質疑応答の時間に質問が出ました。このように皆さんが共通して抱いていらっしゃるだろう疑問につきましては「Q&A集」を作りますのでお待ちください。

今回の説明会の目的が、生徒の履修の助けのために、ということでしたので、当日出席できなかった保護者の方で、お子様の履修にご不安をお感じの方は、担任、コースアドバイザー(99年4月より)真砂先生、あるいは私まで、どうぞ直接ご連絡ください。

今回の改革、ひとまず、予定通り、生徒の一人一人にとってよりよい学習環境を提供する、という目的を、形としては、実現しました。形が出来上がった中、丁寧な履修指導を通し、この制度が本当に生徒ひとりひとりにとって有意義なものとなるよう全力を尽くすこと、一つ一つの授業の内容充実のために全力を尽くすこと、という新しいステージに入ったと、実感しています。

この間、できるだけいろいろな機会を通して、今回の改革についてお話をしてきたつもりです。もちろん、力足らずで、なかなかうまく趣旨をお伝えできなかったところも多々あったかとも思いますが、今は、生徒のみんなも、保護者の皆様も、この制度を理解してくださり、いかにそれを生かしていくか、という風に取り組んでくださっていることを嬉しく思っています。保護者会はこの改革に合わせ、これまでの「クラスマザー」を「学年委員」という形に変える、という決定をして

くださいました。このような決定が、私たち教員に、なんという力を与えてくださることでしょうか。本当に感謝しております。

生徒も、この一月、これまで以上に、自分の科目選択について、各先生のところへ、相談に行っているようです。

「そういえば、この学校で、先生のところへ相談に行ったとき、断られるようなことって、全然ないね」

そんな嬉しい言葉を耳にしました。

理想と志を持って歩みたいと思います。それなくして、教育なんてありえないのですから。

本校では、1998年度より、それまでの4学期制から各学期同授業日数の3学期制(60日×3)へと移行しました。4月～6月を春学期、9月～11月を秋学期、12月～3月を冬学期と呼んでいます。

また1999年度から、学期ごとに単位を認定する「学期完結制」を導入します。このため、学期ごとに履修科目、時間割が変わります。

さらに1999年秋からは、併設の大阪インターナショナルスクールとの共通カレンダーが実現されるため、二校がほぼ同じ授業日になり、合同の授業や行事等がますます活発化することが期待されます。

第6期生73名卒業



3月6日(土)10:30より、高等学校第6回卒業式が本学園体育館にて挙行されました。

今年も理事長・学園長・校長あいさつに続き、卒業生一人一人についての紹介とスライド上映を行いながらの卒業証書授与、さらに在校生の送辞と合唱、日英2ヶ国語での答辞、そして最後に再びスライドで思い出に残る数々の場面上映して式を終えました。

今年は初めての試みとして卒業生の宮崎寧菜さん、小野有理さん、平野正則君の3名が司会を行いました。緊張した表情の中にもしっかりと口調で大役をこなしていました。

73名の卒業生の皆さん、輝ける未来に栄光あれ。



お祝いの言葉特集

はばたけ！若き地球市民

藤澤 皖

前OIA校長

ご卒業おめでとうございます。表題のメッセージは、昨春の卒業式で校長として贈った言葉です。

中国、インドネシア、タイ、オーストラリアなど7か国からの国際教育の専門家を招いて、アジア太平洋国際理解教育会議が、東京で1月に開かれました。私も日本側の一人として出席したのですが、各国代表のスピーチを聴いて、共感することが多々ありました。

国際交流が盛んになって、文化の異なる人同士が「共に生きる」時代、共に生きなければならない時代、いわば国境を越えて交流し合う地球社会になりつつあるということ認識しなければならないということです。言葉が思うように通じなかったり、考え方の異なる人との対話は快適なものではないかも知れませんが、しかし、そのような交わりは、新しい発見も生むもので、知的好奇心を持っていれば、自分自身を大きくしてゆくことにもつながるものでしょう。

自分の生き方をはっきりさせ、異なる意見に耳を傾け、それを理解する柔軟性を持ち、自らの考えを相手に通じるように表現すること、遠くにあって見えない世界のことで想像して思いを馳せられる力、これらの資質を育成することが国際教育の課題であるという共通の思いを国際会議を通じて持つことができました。思い返しますと、私が千里国際学園で何回も主張していたことと一致します。改めて、今年の卒業生にも、同じ表題の言葉を贈らせて頂きます。皆さんがどのような進路をとられるかわかりませんが、千里国際学園から巣立ったということを記憶

にとどめて下さい。外務省の一室より、期待の念を込めて、e-mailで発信します。

大迫弘和

OIA副校長

最後に残ることばってきっと単純なものだと思うのです。例えばそれは「元気でね」、例えばそれは「ありがとう」。五つのリスペクト、忘れないでね。

大海原に船出するあなたたちへ

栗原真弓

カウンセラー

カウンセリング室に差し込んでくる陽の光に、春を感じる季節になりました。そして今年も、長年親しんだ人たちとお別れの時がやってきました。高校3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。一人ひとりの顔を思い浮かべながら、共に話したあの時の表情を、それぞれの成長を思い出しています。学校に勤めることの喜びは、生徒のみなさんの成長を間近に見られることです。別れは悲しいことですが、みなさんの船出を祝福する気持ちの方が大きく、こちらまで活力をいただくような気がしています。

高校を卒業するということは、船の進水式に似ています。ある程度自分というものがわかりかけてきたあなたたちが、社会という海に船出して、自分で舵を取り始めるのです。大海原は朝日に包まれて明るく希望に燃えている時もあれば、暗闇に一筋の光りさえも見出せない時もあるでしょう。でも、船から飛び降りることはできません。航路はあなたが選び、舵はあなたが取るのです。他の誰にもあなたの船を動かす代わり

はできないのです。

『おのれの道をおのれで選び、その明かりを照らしてすすむこと』

これからのあなたたちへの私からのメッセージです。自分に授けられた「何か」を感受し、それを大切に育てていってください。そのためには内部を見つめることのできる確かな「心の眼」と、さまざまな局面に対応することのできる「信念」がなくてはならないでしょう。自分に与えられたいのちの灯を大事に生きている人、「今」から逃げないで謙虚に立ち向かっている人、信念を持ち生かされていることに感謝を忘れない人、そのような人々には内面から滲み出る光りのようなものが感じられます。しかし時に、人は迷い、自信を無くし、燃え尽き、絶望的になることもあります。それが、人間が人間たる証拠です。機械ではないのです。そんな時は、灯台の明かりに船が助けられるように、親元に戻ったり、学園の先生あるいは同窓の友を訪ねたりして、安らぎや指標を求めてください。また、これから先の人生にも、いろいろな素晴らしい出会いがたくさん待っていることでしょう。求めて努力していれば、必ずあなたにとっての貴重な出会いが必要な時に与えられます。そのような出会いもまた、あなたにとっての灯台の光となることでしょう。

わたしはいつの日か鵜となって、大海原のあちこちを進んでいるみなさんたちの船を眺めながら飛んでいたいな、そんなメタファーが頭の中に浮かんできました。これからも見守っています。そして、素敵な思い出をありがとう！

困難は貴重な経験

馬場博史

高3-1組担任・数学科

私が高校3年生の時は椎間板ヘルニアとの闘いでした。これは腰椎の間の軟骨（椎間板）の位置がずれて坐骨神経を圧迫し炎症を引き起こすもので、腰から一方の足の先まで疼痛・鈍痛・痺れを伴います。椅子には長時間座れないのでベッドに横になって受験勉強をしました。週に2～3回は高校の近くの整形外科へ通院するという毎日でした。

悪いことは重なるもので、受験を控えた1月初旬、通院の帰りにバイクで走行中、前に止まっていた車のドアが突然開いてぶつかり、右手の中指の付け根にヒビが入りました。その部分を固定しなければいけなかったので、入試直前まで文字を書くのに不自由しました。

今考えると、この逆境の中でどうしようかと工夫したおかげで、かえって元気な時より短時間で能率良く勉強できたように思えます。その当時は苦痛のために自分の不運を恨んだこともありましたが、今となっては貴重な経験だったと思えるようになりました。皆さんも、これから先どんな困難な状況に出遭っても、諦めずに最後まで頑張ってください。

(PS) E-mailアドレスを持ったら必ず連絡を下さいね。卒業後も母校の情報をお送りします。インターカルチャへのE-mailでの投稿もお待ちしております。

松島 勇

高3-2組担任・国語科

卒業生が中学一年生としてOIAに入学してきた春に、僕もこの学校にやってきました。その生徒たちが卒業を迎えるのだと思うと感慨もひとしおです。OIAで六年間同じ月日を過ごしてきました。授業でも高校一年生を除いて、ずっと担当してきましたし、今はクラス担任として三月を迎えることになりました。卒業生に、そして僕にとってこの六年間は大きな意味を

持った日々だったと思います。

今、中学三年生の授業で「いちご同盟」という小説を読んでいます。卒業生が中学三年生の時にも授業で読みました。中学卒業という節目の時期に、自分の生き方を考えるこの小説を読み、そして自分の将来についての作文を書いてもらいました。その時の自分の将来に対する考えと今現在の将来に対する考えに変化はあるのでしょうか。変化はあってもいいし、なくてもいいと僕は思います。なぜなら信ずる道をひたすらに進むという姿も美しいし、あれこれと思い悩みながら一生懸命に自分の道を探す姿も美しいと思うからです。大切なことは、自分でしっかりと考えてその道を歩んでいるかどうかということだと思います。みんながそうするからとか、その方がいいと人に言われたからとかで決めないようにしてほしいと思います。それではなによりも自分で自分に対して責任が取れなくなってしまいます。そういう意味では高校卒業というのも大事な節目の一つです。自分の生き方をしっかりと考えてほしいと思います。そしてこれからの人生においてまだまだ節目の時期はやってきます。その一つ一つの節目にあたってしっかりと考える人になってほしいと祈っています。

志垣満理

高3-3組担任・生活科学科

みなさん、卒業おめでとうございます。この学年には、担任として5年間も一緒に過ごさせてもらい、1人1人が忘れられない卒業生です。思い出もたくさんあります。楽しかったこと、大変だったこと、色々ありましたが、全部ひっくるめて、本当に良い経験をさせてもらいました。勇気づけられたこともたくさんありました。どうも、ありがとう。

これから、それぞれの道を歩んでいきますが、その中で、色々なことにぶつかると思います。何かを、選ばなくてはいけない時もあります。そんな時、考えて欲しいことがあります。よく「自分はこうしたかったのに、周り

がこうしろといったから...」と上手くいかなかった時に、周りの責任にしようと思いませんか。でも、こうしろと言われても、実際にそれを選んだのは、自分なのです。誰のせいでもありません。自分の責任です。「そう言われたから、そうした」と言うけれど、「そう言われたけど、自分はこうしたい。でも、色々なことを考えると、そうした方が良いかもしい。そうしよう。」と選んだのではないですか。「いや、そこまで考えて決めたんじゃない」というのは、考えが足りないということではないでしょうか。みなさんは、もう、自分の頭でしっかり考えてゆけるだけ、十分な大人です。どんな時でも、自分の考え、気持ちに耳を傾けて、周りのことも考えて、自分で納得のいく選択ができれば、良いですね。たとえ、それが自分の気持ちに反することであっても、そう決めたのなら、その中で、自分の力を存分に発揮して下さい。(自分の思うように生きられるにこしたことはありませんが...) いつも「ああしとけばよかった」とか、「こうしとけばよかった」とか考えても、その時は戻ってきません。(そう思う時は、また、新たな選択の時かもしれませんね。)これから、色々な場面で、選択をせまられる時がありますが、ただ流されるのではなく、自分の責任において、自分の人生を歩いていって下さい。せっかくあなたに与えられた人生です、誰かのせいにして不満ばかり言っても楽しくありませんよね。誰でも、自分の人生をしっかり生きてゆく力を持っています。その力を使わずに、人に頼って、上手くいかなければ、人のせいにしてはもったいないと思います。これから、大きく開けているみんなの人生、本当に楽しみです。たまには、どうしているのか、近況報告などしてもらえると嬉しいです。(1年先でも、5年先でも、10年先でもいいよ。)

次のステージに1歩進んだみなさん、これからも、元気に頑張ってください。応援しています。

東眞理子

高3 副担任・英語科

ご卒業おめでとうございます。これからはほんとうの意味で自分で人生を作っていくわけですね。失敗も成功もあるでしょうが、なにもかも自分の責任というのはおもしろいと思います。十年後の皆さんがどんなふうになっているか楽しみです。どうぞお元気で。

木村典子

国語科

卒業おめでとうございます。今の高3はほとんどの人と授業で出会いました。そのうち何人かは3年連続一緒でしたので、とてもなじみ深い学年です。別れることがちょっと淋しいです。卒業しても時々学校に顔を出して下さい。待っています。

何か困難に出合った時、ただ右往左往するだけでなく自分で決断し、その決断に対し責任のとれる大人に成長して下さい。あなた達の今後の人生に幸多いことを祈っています。

福島浩介

国語科

常識破リトナルモ常識外レトナルナカレ胸ヲ張りテ上品ニ生キヨ

野島大輔

社会科

12年生の皆さん

ご卒業おめでとうございます！
皆さん、スポーツや恋に集中できるのは若いうちですよ！
本当にそうですよ！
悔いのないように過ごして下さいね！
僕は皆さんと過ごせたので、充実した悔いのない青春でした。
お元気で！
もうボンコツの野島さんより

池田大介

社会科

"若き血"を以て人生にスパイスを！

石田純子

数学科

御卒業おめでとうございます。
4月からの新生活に、幸あれ。

高橋寿弥

数学科

この度は御卒業おめでとうございます。私自身は6年間を通じて皆さんの授業を担当したのは、皆さんが中1の時と高2の時だけでしたが、私の、皆さんの印象を一言で言い表せば、「やんちゃな団結力のある集団」ということでしょうか？中学の時はひたすらやんちゃで、みんな喧嘩ばかりしている毎日だったのを覚えています。学年が上がるに連れ、運動会等で、結束力の強さが目立って来ました。一見普段はバラバラに見える集団なのですが、いざという時の一致団結力は本当に信じ難いものがありました。これからはみんなバラバラに巣立っていきますが、この学園で培った「やんちゃさ」「団結力」を一人一人忘れずに、元気に生きていって下さい。皆さんの健康と成功を心から祈っています！！

田浦秀幸

英語科

卒業おめでとう。

君たちとは中学1年生からのつきあいでした。教師として初めて教える中学1年生でしたが、君たちのおかげで中学1年生の英語を教えるやりがいを経験でき、それ以降毎年中学1年生を教えるきっかけとなりました。中学3年生のオーストラリアホームステイでも、前向きに頑張る姿を随所に見せてくれて、大人へと成長する貴重な3週間をともにできた思い出深い3週間でした。高校2年からは中学では接したことのない生徒と授業を通して、学習・スポーツ何に対しても学年全体がまとまって常に前向きに進んでいけるのは、生徒一人一人がそういう姿勢を持っているからだ、よくわかりました。今担任を持っている中学2年生にも常々「今の高3のように成長してほ

しい」と思っています。先輩として下級生に日々接してもらえなくなるのは残念だし、それにも増してもう授業で会えなくなるのが本当に寂しいですが、今のpositive attitudeを忘れることなく、新しい環境でもどんどん自分を伸ばしていってください。そしてたまには学校に元気な姿を見せてください。

平井太佳子

保健体育科

卒業おめでとうございます。

やさしく、たくましく人生を切り開いていって下さい。

松井尚子

保健室

ご卒業本当におめでとう。私にとって勤務してから2回目の皆さんの卒業には、特別な思いがあります。怪我や病気の時だけではなく、皆さんとはいろんなところがかかわらせてもらいましたね。受験のプレッシャーで辛そうだった顔、彼や彼女が出来たと報告してくれる幸せそうな顔、逆に別れ話になってどうしようかと悩んでいた顔、個性教育での真剣な表情、泣いて、笑って、思い出一杯の学園生活でしたね。そんな皆さんから、いつもいつもエネルギーをもらっていたのは私の方でした。皆さんの笑顔とお別れるのはなんだか、長年の友人と別れるような、妹や弟を失うような、そんな寂しささえ感じます。でも皆さんが健康な出発をしていくのを見送るほど、うれしいことはありません。健康であることは、とても大きな財産なのです。これからの人生、きっとまたいろんな事があるでしょう。もしもあなたが、この学園をそして先生やスタッフを再び必要と感じたら、いつでも声をかけて下さい。ここはいつまでもあなたたちの学校、先生はいつまでもあなたたちの先生、なのですから。May God bless your future. 元気で、ね！

出丸 香・Ted Johnson

英語科・旧教員

卒業おめでとう！

高校を卒業するみんなとは中学2年生の時、中学を卒業するみんなとは中学1年で入学した時に初めて出会いましたね。あのころは、小さなお豆さんたちだったみんなも、きっと今は大きなお豆さん・いえいえ、立派な高校3年生、中学3年生になっていることでしょう。これから外の世界に飛び出してからも、千里国際学園の高等部に進んでからも、楽しいことやつまらないことや辛いこと、いろんなことを糧にしてさらに大きくなっていてください。私も太平洋のこちら側から、応援しています。

私は去年の9月からオレゴン大学の博士過程1年生です。勉強と週4時間教える日本語のクラスに追われる毎日です。ジョンソン先生も元気です。就職活動中で、主夫をしているので、私はハッピーです。

では、またどこかで会えるのを楽しみにして・・・

Congratulations!!

卒業によせて

青山比呂乃

図書館

6年間いた人も、そうでない人も、OIAでの日々にピリオドを打って、次のステップに進む日がやってきましたね。卒業していく皆さんにとって、千里国際学園はどんな場所だったのでしょうか？そして図書館は？一度聴いてみたいです。

私も中学高校と6年間同じ学校で、同じメンバーの友達と先生方に囲まれて過ごして卒業しました。私の場合は、編入生は、高校の始めに3人だけで、あとは全く同じメンバーだったので、OIAとはちょっと違うけれど、小学校6年のあと全く新しい世界に入り、そこで出会ってすっかり親しんで育った場「学校」を離れて、バラバラになっていくのは、とても大きな体験でし

た。

離れるとなると今更ながら、温室のように自分たちを守ってくれていたこの「学校」という場が、とても貴重な愛しいものに感じられたのを思い出します。建物だけでなく、そこで育まれている小さな営みの一つ一つが、友達、先生、その他例えば用務員さんたちとの、人と人のつながりのあり方が、それまでの自分をまさに形成しているんだとひしひし感じたのです。いろんな「当たり前」と思ってきた物が、実は当たり前ではなくて、いろいろな人の思い、日々の営々とした努力の結果、静かに自分に提供されていたのだという事に、やっと気付いたようでいて、それは気付きのほんの始まりでもありました。

思えば中学高校時代、「自分は特別なんだ」と思いたい気持ちと「自分も普通なんだ」と思いたい気持ちの間をいつも行ったり来たりしていたようです。自分だけが苦しんだり悩んだりしているような気分になり、苦しい一方でそれを密かに誇っていたり。でも、その中で、いつのまにか素直に自分の気持ちを出せなくなって、自分でも自分がわからない、自分を見失ってしまった、と痛感したのが、いよいよ進路の問題に行き当たった高3のときでした。

そして改めて周りを見まわすと、私が自分の内側の気持ちにのみかまけているうちに、周りの友達はいつものまにか自分のやりたい事を既に見つけていて、それに向かっていく次のステップに取り掛かっている事に、呆然としてしまいました。かといって、おいそれとすぐに気持ちを外に向けて歩み出す事もできず、私はとりあえず色々できそうな大学に何とか合格する事で、この、「私は何者なのか」「自分は本当は何をしたいのか」という問題を大学時代に持ち越していきました。

こうして考え始めた私が気付いた事は、「私はこのままで良いのだ」ということと、「自分と他の人は全

く違うのだ」ということでした。ありのままの自分で良い、そのままで頑張らなくても充分自分は自分であって、他の人に替えられない存在なのだ、そして、あの人もこの人もそういう存在で、おたがい全然違うから、おもしろいのだと。

ところで、千里国際学園という、「自由」な場で、多くの人々が在学中に、その「自由」に伴う「責任」とは何か、考えてみたことがあるでしょう。英語では、responsibilityといい、見ての通り、response応答するという言葉から、出てきた言葉です。何に応答するのかといえば、元々の意味は「私たちを創造した神の期待に」という事のようにです。

それでは、人間に神は何を期待しているのでしょうか？どう生きる事が、期待に応える事になるのでしょうか？いろいろ考えてきた今、私の答は「生き生きと生きる事」「自分自身を最も良く生かす事」です。しかも、それは周囲の人、もの全てをおたがいに生かし合うものでなければならぬのだと思います。それが人間の責任なのだと思います。抽象的な言葉で言うのは簡単でも、一つ一つの場合を丁寧に生きるのはたいへんですけれど。

さて、卒業生は、温室である「学校」という場を巣立って、これからは、風は冷たく立っているのもやっと、という状況に会うかもしれないけれど、自分に課せられた期待に責任を持って応えていってほしいです。もうそろそろ自分で、自由と責任、その素晴らしさと重さをしっかりと担う時です。元気で、卒業おめでとう。

なお今年度の卒業生保護者会より、記念品として、「図書展示架」を1式寄贈していただく事になりました。らせん階段を降りた正面の四角い柱に取り付け、新しく入った本や、推薦する本などを展示していきたいと思っています。ありがとうございました。

こうか
江夏 毅（第1期卒業生）

皆さん卒業おめでとう！
野球部の皆、また最後にやった野球
いつかやろう。

みすみ
三角大輔（第5期卒業生）
関西学院大学総合政策学部

いやあ。大学生活は忙しい。それでいて忙しくて本当に充実した一年でした。私の19年の人生の中で一番楽しい年でした。

いろんなことに足をつっこんで結局どれも中途半端で終わったような感じでしたけど、とりあえず友達と人との関係は普通の人の倍くらいできました。最初は交響楽団にはいて、忙しい居酒屋のバイトもやり、それから大学祭実行委員会にはいり、家庭教師もはじめ、アメリカにいき、卒業記念パーティー実行委員会の会計のトップを今やっているというような感じです。（それよりなによりも麻雀をいちばんやっているのですが）

今年の卒業生にいいたいことは、一回生の春学期は単位をとるよりも友達をたくさんつくって、いろんな事に足をつっこんでみて、自分の本当にやりたいことを見つけてみることだとおもいます。私は当分見つかりそうにないですが、いまの生活には忙しすぎるぶんかなり充実しているので満足しています。大学っていうのは入ってからじゃないと何ができるのか、何を自分はするのだろうかわかりません。僕もOIAにいたころには大学に入ったらもっとクラリネットを修行しようと思ってたんですけど、したいことが多すぎて断念してしまいました。この前も半ばりにクラリネットのふたをあけました。一つのことに打ち込もうとおもうとかなり時間が束縛されます。専念するのもいい事だとおもうのですが、僕は欲張ってしまって、時間の許す限り自分のできることをやってみることを選びました。おかげで毎日予定が詰まりまくります。忙し

母校で2度目の教育実習

谷川依津江（第2期卒業生）
大阪外国語大学国際文化学科

大学の卒業論文の提出も終わり、ほっと一息ついたところで千里国際学園での2回目の教育実習が始まりました。前回実習したときのOIAの生徒と廊下ですれちがうことがあり、その時に、みんなが「あ、谷川先生だー。」と声をかけてくれました。覚えていてくれたんだと思うと、本当に嬉しくて「教育実習やって、よかったな。」と思いました。

今回はOISで日本語を教えさせていただきました。大学で日本語、それも主に日本語教育を専攻しているのですが、実際に日本語を教えるのは初めてだったので、とても緊張しました。小学校1～4年生、ミドルスクール、ハイスクールと担当した学年も幅広く、貴重な経験を得ることができました。

正直言って、前回も、今回の教育実習中も「私は教師に向いていないんじゃないか。」と悩んだことがありました。実際のところ向いているのかどうかは分かりません。しかしこの学校での2回の教育実習を終えて「教職に就きたい」という気持ちは、ますます強くなりました。この4月からは大阪外国語大学の大学院に進学しますが、いつかこの学校に教師として戻ってこれる日がくるといいなぁと思っています。

最後になりましたが、いろいろアドバイスをくださった日本語科のWeintraub先生、授業に協力してくれた生徒の皆さん、そしてその他サポートくださった大勢の方々に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



OISで実習した大阪外大生（左から）谷川さん・森本さん・福井さん

すぎるのも禁物です。気をつけましょう。

大学には自分の探していることが絶対何かあるので皆さん出会えるといいですね。心のどこかにそれを残しつつ、大学生活を楽しんでください。期待に応えてくれるとおもいます。

Kimiyo Takumyo (transferred from OIS)

アメリカ・インディアナ州在住

What's up?? Meeting you guys again in OIA last December was the most precious moment for me. Some of you may not know or not remember me, but I want to congratulate all of you for completing the highschool. Good luck!!

Love: Kimiyo

卒業論文発表

松島 勇
国語科

国語科では高校三年生に卒業論文を課しています。テーマは自由で一人一人が興味を持った事について論じるのですが、この卒業論文は国語の授業のまとめだけでなく、O I Aでの学習をまとめたものでもあると思います。

さて、今年度の卒業論文の中からを三つほど紹介します。このほかに今年度は原稿用紙に換算して約60枚という、質・量ともに力の入った吉川君の大作が提出されたのですが、紙面の関係で紹介できないのが残念です。

全作品が掲載された卒業論文集は、図書館にありますので興味を持たれた方は、是非ご覧になってください。

大学受験 in Korea

金 恵栄
高校3年

今年私たちは受験生だった。私にとっては初めての受験らしい受験だった。日本での大学受験は私の人生において大きな選択の一つであった。だからこそ今回あえて韓国の大学受験について考えてみたいと思った。私の韓国にいる友達の進んできた道、そしてもしかしたら自分の進むはずだったかもしれない道を一度詳しく知りたいと思った。

今年韓国政府は新しい大学入学制度を発表した。私は現在の入試制度と新しい入試制度を調べ、その問題点と解決法、そして韓国の教育について少し考えてみた。

1. 現在の韓国の大学入試制度

現在韓国の大学入試の中心になっているのは「修学能力試験」というものである。これはマーク式のテストで、日本のセンター試験に似ているが、違うところは、受験生全員がこの試験を必ず受験しなければならないという点である。なぜなら現在韓国では大学別の入学試験が廃止されているからである。(小論文と面接を除いて)ということは、この「修能」(韓国ではだいたいこう呼ぶ。)が本当に重要になる。まさに一発勝負である。

ここでこの「修能」について詳しく説明しよう。

「修能」は400点満点で、5科目に別れている。国語(韓国語)、英語、数学、理科、社会。

国語：これは日本の国語と同じ。120点満点で、文系・理系両方とも必修である。

英語：これは80点満点で国語と同じく文・理必修。

数学：これも80点満点。まず共通数学というものがある、これには日本の数。、数A、数Ⅰ、数Bで習うほとんどの基本的な内容が含まれる。そして数学1と数学2がある。

1の方は文系用で、2の方が理系用。共通数学の方はみな必修で、1と2で選択する。

理科：これにも共通科学というものがある、化学・生物・物理・地学の基本的内容が含まれている。これも文・理必修で理系の場合はさらに上記の4つの教科の中から一つを選択する。

社会：社会は、文・理必修なのが次の4教科。一般社会(現社みたいなもの)、韓国地理、倫理、韓国史。そして文系の場合は、政治・経済・世界史・世界地理・社会文化の中から1教科を選択する。そして点数は科学を含めて120点満点だが、大学によって点数配分が異なるという。

受験生はこの「修能」が終わるととりあえず一安心。その次に待っているのは「特次募集」である。各大学で「修能」何点以上の生徒、と決めて各学部何%かの生徒を募集する。これはほとんど「修能」の成績のみで合否が決まる。生徒は一大学のみに出願でき、合格すれば必ずそこに行かなければならない。この「特次募集」で落ちた場合、「正時募集」というのがある。これは4つの期間に別れていて、一つの大学の受験日は4つのうちの一つの期間にしかなく、受験生は一期間において一校しか受験できない。だからもし第一志望と第二志望の大学の両方の入試が同期間にある場合、片方の受験は諦めなければならない。ともあれ受験生には4回の受験のチャンスが与えられているわけである。一期間はだいたい5日ぐらいで、1月の末には全ての期間の試験と合否判定が終わるようになっている。(韓国では3月に新学期が始まる。)

この「正時募集」では、「修学能力試験」の点数の他に「学生記録簿」というものが合否に関わってくる。これは調査書みたいなもので、高校3年間の成績やボランティア活動などの内容が含まれている。だいたい合否は、「修能」が6割、「学生簿」の方が4割で考慮されるが、大学によって異なるらしい。そ

してこの2つの他に小論文や面接が加わる場合もある。

この他には「数時募集」というものがある。これは「修能」前にあるのだが、推薦入試みたいなもの。でも違うところは、これで合格が決まるわけではなく、「特時募集」において他の受験生より有利になるだけということである。この「数時募集」で合格(?)すれば、「修能」で多少点数が低くても大学の方で目に見てくれるという仕組みである。これは「修能」の前に大学が一定の条件を出してその条件に該当する生徒を校長が推薦するというものだが、推薦を得るためにはもちろん成績がよくないといけないし、模試の成績もある程度よくないといけないらしい。推薦が決まった生徒は自己紹介書を書いたり、大学のテスト(小論文等)を受けに行く。

これが韓国の現在の大学入試制度の主な内容である。

2. 現在の大学受験に伴う問題点

まず、入試制度における最も大きな問題点は「修学能力試験」が簡単である点である。おとしからこの「修能」が簡単になってきたという。今年は初めて400点満点を取った受験生が出たが、毎年390点以上の受験生が沢山いる。(今年は文系だけで390点以上の受験生が180人以上に及んだ)こんなに高得点者が多いと受験生の優劣の見分けが難しくなる。今年話題になったのは、ソウル大学の特次募集において、高得点者があまりにも多く、「修能」で395点をとった受験生が不合格になったことであった。

受験生の優劣の判断のための中心となるテストがその役割をきちんと果たしていないのではないかという疑問が浮かび上がってくる。

しかし現在韓国で最も深刻な問題となっているのは入試制度よりも高校での教育や人々の意識である。韓国の大学受験戦争は日本よりすごいというが、本当にそう思う。何がすごいかというと、とにかく学校での

勉強時間が長いのである。だいたいの学校で授業自体は4時ぐらいには終わるようになってきているが、その後補習や自習が延々と続く。だから家の遠い生徒は昼と晩両方のお弁当を持ってこなければならない。友達の話によると自習はだいたいの学校で夜の10時ぐらいに終わるが11時までのところもある。土曜日でも4時間の授業が終わってお昼ご飯の後、6時まで自習する。夏休みもない。スケジュール上では日本の高校と同じぐらいの期間の休みのはずが、実際は学校での補習、自習で本当に休めるのは長くても一週間、短いところで4日という子もいた。もちろんこれは私の友達の場合なので、実際にはもっと沢山休める学校があるかもしれない。しかし夏休みの全部を休めるところは本当に少ないのが現状である。もともと受験生に休みなどない、といわれてしまえばそれまでだが...

このように学校で長い時間勉強させる理由は、学校で勉強する分校外での勉強をなくすためである。韓国では家庭教師というものが禁止されている。莫大なお金がかかり、そんなことにたくさんのお金をかけるような教育は間違っているという考えからであろう。これだけ学校で勉強させられては塾などに行く時間もなさそうだが、実際には多くの生徒が家庭教師をつけて勉強しているらしく、不法なだけにその費用はあがる一方である。しかし多くの親はそうしてまでも子どもをできるだけいい大学、いわば名門大学に入れたいたい。

学校での勉強に話を戻すと、この補習や自習の目的はもちろん「修能対策」である。一発勝負だからひたすらそれに向けて勉強するしかない。韓国のほとんどの高校生が3年間「修学能力試験」というものに向けて勉強する、いやさせられる、のである。だからこそ「修能」が終わった瞬間の喜び、失敗してしまったときの失望感は、計り知れないほど大きいだろう。

このように「修学能力試験」一つが高校3年間すべての証みたになっていること、そのために受験生も親も学校もみんなが必死になっていること、しかしその「修能」はその機能をきちんと果たしているのか少し疑問であること...。これらが今韓国の大学受験に伴う表面的な問題のように思う。

3. 新しい入試制度

このような問題解決のため、政府では新しい大学入試制度を考えた。この入試制度は2002年から採用される。('99年の3月から高一になる生徒が大学受験の年) 新しい入試制度の主目的は、現在の学力中心、生徒を相対評価する教育から抜け出し、もっと生徒一人一人の個性や様々な能力を重視しようというものである。そのために政府が考え出した案は、「修学能力試験」の改善、「学生記録簿」の改善、大学別の生徒選抜方法の自由化と多様化、推薦制度の拡大等である。まず「修学能力試験」については、現在の形態を大体維持するが、総点を出して受験生をランク付けするのではなく、各教科のみの点数を大学側に提示し、大学側も学部によって必要科目の成績のみを要求する、というものである。そしてこの「修能」の成績は合否判定の最低限の資料とし、「学生簿」などをより重視しようと考えている。そのためには「学生簿」に各生徒の様々な活動内容が正しく記録されなければならない。今まではどうしても成績中心だったが、そうではなく、クラブ活動や、ボランティア活動等の課外活動をより重視しようとしている。そしてある得意分野に優秀である生徒をそのことをアピール出来るようにすることも重要視している。そして大学別の入試においては、今までどうり、国・英・数を中心とする入試は廃止し、その大学の個性を生かすような入試を考えるようにしようとしている。これは、今までどうしても「名門校」というところに生徒が偏りがちだったのを、

学校側がその個性を様々なアピールすることによって、生徒も自分の個性にあった大学をもっと広い視野を持って選べるようにするためである。そして推薦制度においては、今まで成績優秀者の校長推薦のみだったたくさんの生徒を校長だけでなく、クラス担任や、その生徒の属している学校以外の団体の推薦なども可能にしようというものである。

このような案が現実のものとなれば、受験生は「修能」に向けて必死にならなくてもよく、自分に合った大学や入試方法をのびのびと選べるようになる。

4.新しい入試制度に伴う問題点とその解決法

この新しい入試制度は案だけ見ては素晴らしいようであるが、様々な問題を抱えている。第一に、今まで生徒をランク付けすることばかりを主としてきた高校教育がそんなに簡単に変わることが出来るかということである。これは大きな問題で、いくら入試制度が変わるといっても、今までどうり学校でひたすら勉強させないと、生徒の親は不安に思い、結局校外で勉強させることになるだろう。そうならば不法家庭教師等をなくそうとして考え出された政府の案は無意味なものになってしまう。政府はこのような問題に対して、人々の意識の改善が何よりも重要であると訴えているが、長年の意識がそう簡単には変わらないのが現実である。そして更なる問題は、かなり重要視されると思われる「学生記録簿」がどれだけ公正に作られるかという問題である。韓国では親のパワーがすごく、また先生との関係も複雑である。親が学校に行って色々と努力(?)すれば、先生の生徒への対応や成績までもがよくなることは少ない話ではない。もちろんこれは小学校で多く、高校などではかなり少ないかもしれないが、無視できない部分である。こういった背景があるからこそ、「学生簿」がどのよ

うに作成されるかに関心が寄せられている。そしてどのような記録をするかその基準もまだ定められておらず、高校ごとに事情もかなり違うなど、色々と問題はあるようだ。政府側は、きちんとした基準を設け、先生を指導したり、管理機関のようなものを設けようと考えている。また大きな問題の一つは推薦制度に関するものである。その推薦基準などあいまいな事項が多く、推薦を得るための生徒間、学校間の新たな競争も予想される。そして推薦に関する「公正性」もやはり問題である。政府はこれらの解決のため、きちんとした推薦基準を設けること、また推薦過程を公開することなどを考えている。

このように色々な問題があり、政府はそれなりの解決案を考えてはいるが、どれだけうまく作用するかはまだ分からないし、人々の新しい入試制度に対する信頼感や期待のようなものも差ほど大きくないのも現状であるように見える。

大学受験とは私たちにっていったい何か。また入試制度というものはどうあるべきか。現在の韓国の大学受験戦争は確かに異常で、沢山の問題を抱えているように見える。改善される必要があるのは事実である。しかし新しい入試制度案がまだまだあいまいなのが問題のように思う。より具体的な案を模索し、人々を納得させなければならない。そして政府のいう人々の意識改革はとても重要であろう。人々の大学に対する意識や教育に対する意識を一日で変えることは無理である。だから2002年に向けて徐々に変えていかなければならない。そして受験生自身の大学受験に対する意識も変わらなければならないように思う。「この分野の勉強をしたいからこの大学に行く。」というごく単純な大学選びを韓国の受験生はなかなかしない。あるいはできないのかもしれない。とにかくどこでもいいから入ってから考えよう、といった感じ

である。願書受け付けの最終日などすごい。指定された場所に集まった受験生達は、締め切りぎりぎりまでお互いの様子を探るのに必死になっている。少しでも志願者の少ない学部に入れるためである。親の協力もすごい。他の大学の願書受け付け場所で倍率がひくような学部を見つけては携帯で子どもに連絡する。何かがいぶおかしいと思う。受験生は自分の大学受験の目的意識をもっとはっきりと持つべきである。もちろん親や学校、社会全体の雰囲気があるような環境を与えてくれないことは事実であるが、そういった要素を全部無視して、自分なりの受験に対する何かははっきりしたものを持たなければ、大学に行く価値は下がるのではないかと思う。

2002年の大学入試改革案、新し教育がただのきれいごとで終わってしまわぬよう、みんなの関心と努力が必要である。生徒自身、親、学校、国、マスコミなど。韓国は素晴らしい教育制度を必ず作れるとどこかに書いてあった。なぜなら国民の教育に対する関心がどういったものであれ、非常に高いからである。それをうまく利用し、そして一つのこと夢中になりやすい国民性を利用すれば、大学入試改革だけでなく、教育全般の改善も時間はかかるとも無理ではないと思う。

とりあえず2002年の大学入試改革に期待を寄せてみる。

<参考文献>

韓国の教育府(政府機関)の発表した「2002年度大学入学制度改善案」1998.10.19発表
Yahoo Koreaで見つけた資料「韓国教育改革の方向」
文化日報'98 7.~'99 1.
中央日報'98 7.~'99 1.

あと私の質問に親切に答えてくれた韓国の友達に感謝!

翻訳書の功罪について

伊藤いづみ
高校3年

日本は外国に比べて翻訳者をとても重要視しているように思える。欧米で出版される翻訳書には訳者の解説が載っていることは少ないが、日本では必ず訳者の「あとがき」が載っている。また、外国で出版される翻訳書には訳者の名前が表紙に載らないのが普通である。それに対して日本ではカタカナ名の下に「訳・」と書かれた本が非常に多く、訳者を尊重している態度である。翻訳者の数が増加して、私たちが翻訳に接する機会が頻繁になってきたにつれて、世間の翻訳に対する関心が高まってきたといえるのだろう。翻訳書の利点、また欠点も露になってきた。そこで翻訳書の功罪について私自身、読者としての視点から考えてみる。

まず翻訳書の良い点として第一に挙げられるのは、翻訳書によってより多くの人にその書籍を読んでもらえることである。原書で用いられる言語を学ばなくとも、多くの人がその作品を楽しむことができる。翻訳書の根本はここにある。原作者は世界的に有名になれる可能性もある。また、娯楽としてだけではなく、必要な情報を得るためにも翻訳書は有効である。昔いわゆるインテリと呼ばれた人たちは本から知識を得ていた。それは国の知識水準の向上へと結びついていた。日本ではそもそも情報獲得のために翻訳が発達した。2世紀にも亘った鎖国制度を取りやめて、明治時代へと突入した日本は外国、特に西洋の情報、が全く入ってきていなかったことを自覚した。日本の近代化は西洋化することであって、それには翻訳によつての情報収集が必要となった。つまり翻訳は日本の近代化への第一歩であったといえるのではないだろうか。

翻訳技術がさほど普及していなかった時代では、原本の言語を十分に習得してからでなければその本を読み、なおかつ分析することはできなかった。

これでは一冊読むだけでもかなりの時間を必要とする。一つの言語を習得することはとても困難なことである。私はアメリカでの生活体験で英語はほとんど自然に身についた。しかし四六時中英語の世界に漬かっている、書物を分析するレベルに至るまでには時間がかかった。始めのころは苦戦しながら頭の中で原文を訳していたため、翻訳書の便利さは良く分かる。言語を習得するとき、大体まず文法から習い始める。ある程度単語力がついてきたら、次にその単語を並べて文章を作れるようになる。しかし、この各文章をつなげて、論理的に順を追って書物を読み始めるには、かなりの語学力がついてからでないと難しい。日本では一般的に中学校から英語を習い始めるが、それから6年かけても学校教育だけでは本を分析できるほどのレベルには達せない。つまり翻訳書のおかげで言語習得の時間を短縮して、その分より速く手軽に本を楽しめるようになった。

ここまで翻訳書の「功」を述べてきたが、ここで一つ「罪」を考えてみたい。先に翻訳書が増えたといったが、到底そのすべてが優れた訳であるとはいえない。中には誤訳といわれるものがある。しかしこれは訳者がその作品をどう読んだかということに関わってくる問題ゆえ、何をもって誤訳というのか、その定義は厳密には難しい。ここでは、訳者のほんの不注意、言語の不理解、内容の不理解による誤りがかかる訳文を誤訳として考えることにする。a morning glory(朝顔)を朝の栄光と訳してしまうような、初歩的なミスは翻訳者が少し気を付ければ防げることである。しかし言語の不理解、内容の一致の誤訳はなかなか訂正が難しい。辞書を引けば解決するような問題ならばよいが、言語の不理解となると致命的な問題となる。この問題は原作の言語と、自分の言語の不理解との二つの場合に分けられる。例えばWhen in Rome do as the Romans doという英語には「郷に入っては郷に従え」ということわざが合う。どちらかの知識が欠けていても、この訳はできない。このよう

な問題は、実際、日本の受験勉強をしていて思ったことでもある。受験での英訳はそれほど高度な解答は期待されないにしろ、日本語だけでもあるレベルに到達していなければ、訳文など話にならない。第二言語を極める前に、第一言語の十分な習得が必要であると思う。また内容が十分に理解できていないと当然のことながら優れた翻訳はできない。読者には間違った情報を与えることになるほか、原文の著者にも大変迷惑をかける。著者の名誉を傷つけかねない。原文の不理解の問題からは少し外れるが、日本で非常に著者に対して失礼だと思うのは、原作のタイトルをニュアンス的な違いのためにある程度調整するのはいいとして、出版側の都合で全く違うタイトルをつけることである。それは日本人の目を引いてよく売れるように、と出版社側の利益だけを考え、著者を尊重する姿勢が見られない。以上のような誤訳を読者が見抜くのは非常に困難である。そもそも翻訳書は原書が読めないために利用するので、その読者が翻訳書と原書を比較するのは、当然無理である。現在、特に有名な作品であれば(例えばシェイクスピアの作品など)何通りにも翻訳されているが、これは誤訳を見抜く方法となるので、翻訳には良い傾向ではあると思う。

しかし、一つの作品につき多くの翻訳書が出てくるのは、逆に翻訳の「罪」としても挙げられる。これは、翻訳は訳者の主観性が大きく反映する点である。翻訳者の数だけ訳し方が出てくるため、原文の本当の意味がとれなくなってしまう。もちろん原文の著者の気持ちは本人にしか分からないものではあるが、読者は訳者の視点というフィルターを通して本を読むため訳者の主観に左右されながら、原文の内容を理解していくことになる。原文を読んで解釈するのとは違った考えを持つことがありうる。単語一つをとってもクロスワードパズルのように正確に当てはまる言葉があるわけではないので、仕方がないことではあるが、当然、訳者は言語の相違に悩まされる。どの言語も並列して成り立っているも

のは決して無いのである。例えば、「俳句」を英訳して日本語本来の性質である物静かさ、純粋さ、またその言葉の奥にあるメッセージを表現するには限界がある。日本語は暗示的であるのに対して英語は明示的であるので、回りくどい日本独特の言い方はわりと論理的な言い方をする英語には相反するものである。文化の違いでも同じ問題が生じる。文学の場合、文学作品と文化は直接反映している。そのため訳者の文化が原書の著者の文化と入り交じって訳書に現れる。これは翻訳とは何か、という問題を考えさせられる。翻訳とは原文を他の言語にただ直せばいいだけのことであって、それ以上考える必要はないのだろうか。フランス語から英語のような基本的に構造が似ている言語での翻訳の場合、片方の言語のある単語をもう片方の対応語に置き換えればよい。深く知識の相互にまで自覚的にふれる必要がないのである。著者サムエル・ベケットがフランス語で書いた戯曲Waiting For Godotをベケット自身が英語に翻訳できたのはこのおかげであるかもしれない。しかし、言語構造が異なる英語から日本語、あるいは日本語から英語の翻訳では使用する言葉選びにも気をつかうことになる。なぜなら日本と西洋諸国の間では、文化という無自覚・無意識的な部分からくる大前提の食違いが生じているからである。原書を他言語に翻訳して、しかも文化をそのままの形で保つ、というのは無謀なのかもしれない。

ここで言語、文化の違いによる翻訳の衝突から離れて、文学作品は歴史書にもなりうることを説明したい。さきほど文学作品と文化はとても密接な関係であることを述べた。つまり翻訳の時に原本の特色が失われるにしろ、その翻訳書から他文化を学べることに違いはない。翻訳書が増えるにあたって他国の状況も理解できる。実際、日本の初期の翻訳書には歴史書が多い。例えばアーサー・ミラーの「ザ・クルーシブル」では1692年のアメリカン・ピューリタンの社会を劇という形で描いている。その抑制された社会の中で

の生活は、ミラー自身が生きた1950年代と共通していて、ミラーは50年代のアメリカをピューリタン時代に映して、自分をとりまく社会への不安を露にしている。彼の文体は実際50年代におきていた共産主義問題を議論していた人々の口調を使っている。このような経験を取り入れた作品はその文化を生きる人にしか書けない。そこで原書を読めない人にとっては翻訳書がその作品に接する適当な方法となる。

世の中が国際化の方向へと向かっているなか、翻訳書が現在必要不可欠なものになっているのは言うまでもない。戦後すぐ、翻訳書は難しいといわれたが、現在では、その苦手意識は薄れてきている。翻訳の方法・技術・研究が進み、今ではかなり読みやすくなった。また、特に80年代から海外旅行が盛んになるなど一種の海外ブームが起こり、我々の翻訳書への親しみがより増している。読者側には翻訳書はとても便利なものに発展してきていると思える。外国の情報が間接的ではあるものの、多量に入ってくる。しかし私たちは翻訳書があくまでも訳者の視点からかかれており、数多い見解のなかの一つであることを忘れてはいけない。人々が翻訳書に頼ってばかりで、それがすべてだと思つと原書の価値が失われてしまうことになりかねない。また翻訳書を読む時には、書いてあることを理解するだけでなく、書いていない原作者が本来前提としている様々な規準も認識する必要がある。我々は翻訳書の功罪を理解した上で、接していくことが求められている。

参考文献

「私の翻訳図書館」鈴木主税＝編、河出書房新社、1996
「名訳と誤訳」中村保男、講談社現代新書、1989

インターネット

～21世紀のダイナマイト～

奥野泰弘

高校3年

～通信の始まり、そして今...～

モールス信号から始まった「通信」の分野は色々な応用方法が発明されラジオや電話、そしてテレビなどが次々と開発され、そして普及していきました。これらが普及したのはそう遠い昔ではなくかなり最近のことです。しかしそこでこの通信技術の発展は止まることはなく次はインターネットが急速に普及し始めています。アメリカではこのインターネットは急速に拡大しており、インターネットを通じた通販の売上げが毎年2、3割のびていて、モールの売上げが劇的に落ち込んでいる等の新聞記事さえあります。日本でも多くの大手電子機器メーカーは家電製品にインターネットを取り込もうと技術開発を進めています。この新しい通信方法は今までのものと同じ要素を保ちながら全く相反するような要素も持っています。それゆえ色々な発展が可能であり、同時に危険性も多く持っています。この新技術に多くの人は大きな期待を抱いており、自分も間違いなくその一人です。しかしこの新たな技術の危険性も無視できないでいます。この21世紀のダイナマイトになりうる技術は余にも持てはやされすぎていると言えるでしょう。

～インターネットの歴史～

まずインターネットとはどういうものなのか、歴史を振り返ってみます。インターネットとはInter-（～の間と言う意味）とnet（網、networkを意味する）を合わせた造語で意味としては小さなネットワーク間をつなげあわせるもの、別々のネットワークをつなげるネットワークといったものです、またInternationalとかけInternational Network とすることもあります。この技術は、はじめ

3校のアメリカの大学付属研究所から始まりました。最初に目指したのは3個所以上のコンピューターネットワークをつないだうでのデータの自動的な配信でした。データを送るために各ネットワーク用のコンピューターにアドレスを与え、それぞれ自分のネットワーク上でのとりのアドレスをリストとして記憶させます。そして、送信先のアドレスを持ったデータを与えられるとリストの中から検索し相手のコンピューターのほうへ向かうように転送します。それを続けると最終的には目的地に着くというしくみですが、これがインターネットの始まりでした。その後、研究に参加する研究所も増えネットワークは拡大していきます。このころはまだこのネットワーク上で出来ることも限られていました。まだ出来たのは電子メールを送ったりコンピューター上でのデータなどを送るだけのものでした。そのうちデータを送るだけで無く許可さえあればネットワーク上のコンピューターにあるデータをどこからでも引き出せるようになります。このころには既に多くの関係者たちがこのネットワークの発展に期待を持ち始めていました。そしてそのうちの一人が初めてNeXT というコンピューターを使いハイパーテキストを使った今のインターネットページの原型を作り出したのです。そのころはただ文章があり、それぞれ指定された単語（ボタン）を押すとそのボタンに与えられた命令を実行すると言うもので、その命令も単純なものでした。しかしこのhtmlが、いまのインターネットの可能性を大きく広げたのです。その後、画像をその文章の間に挿入したり、ボタンを文字ではなく絵にしたり、実行できる命令を増やして、現在に至ります。これだけを見ると余りにも平凡な技術の発展としかいえませんが、これには素晴らしい「新しさ」が芽生えたのです。それは、このインターネットがまずあらゆる通信のネットワークを取り込み、世界中の色々な

ネットワークを通して通信が出来るようになったこと。そして、今までのプライベートな通信から報道、そして個人での情報発信などをすべて国境関係なく行えると言うことです。20世紀は工業の世紀、21世紀はテクノロジーの世紀と言われていますがインターネットは21世紀を代表する発明といえるでしょう。そしてそれはかつてダイナマイトがそうであったように、大きなリスクを抱えている諸刃の刃なのです。

～インターネットの可能性～

インターネットは歴史を見れば分かるように、そもそも一つの通信手段でしかなかったのです。しかし、コンピューターの性能が大きく進歩した20世紀後半にはこのコンピューターを主体とした通信技術はただの通信ではなく、新たなメディアとなりました。この新たなメディアは多くの場で使われています。まずこのインターネットを他の通信技術と全く違うものになっているのが個人での容易な情報発信です。テレビなどでは個人的に放送することなど不可能だし、ラジオなどでは個人の使える小区域地域周波数なるものがありますが、これはほんの数百年の範囲でしか受信が出来ません。しかしインターネット上ではテレビスタジオや小型電波発信機よりも安く容易に自分のページを開くことが出来ますし、一度掲載すればワールドワイドウェブのため世界中どこからでも見る事が出来るようになります。この容易な情報発信によって自分と趣味を同じくする人などのコミュニティを拡大することなどが簡単に出来るようになりました。またインターネットの容易さとそのコミュニティの大きさは色々な商品を扱う通販や業者には絶好のマーケットとなっています。インターネット上で商売をすることによって世界中のインターネットを使う人たちが客になり店舗を増やさずに倉庫と流通方法、そしてインターネット上のページさえ維持すれば世界を舞

台に商売が出来るのです。実際に今ではありとあらゆる店が「立ち並んで」おり、コンピューター上で買えない物はほぼ無いに等しいでしょう。これは身体障害者などで、外に買い物にいにくい人などにとっては便利であり、今は音声ですべてを操作することが出来るよう開発が進められています。これによって体をあまり動かせない人や、目の見えない人などでも簡単に品物を選び買うという行為が可能になってきています。最近では支払方法にも会員制のものやカード、銀行振込など多くの方法があり、購入側は自分の都合にあわせてそれらのものの購入が出来るようになっていきます。さらに買うだけでなく自分の作ったものを売り、確実に購入された金額が入るようにするためのサービス業なども出来てきています。もう一つ大きなメリットとしては、インターネットを使えば時差を利用して仕事を24時間連続で行ったり、次の作業を受け持つ所に資料を送るのに時間がかからないと言う事です。時差をうまく使えば、世界中に散らばっている従業員で24時間通して作業が行え、仕事の効率がよくなるのです。ビジネスにおいても一つ有利なのが、インターネット上での会議です。会議を行うためのサーバーを持つか、レンタルすればわざわざ人を全員呼ばなくとも会議に参加してもらえますからです。これによって会議のために人を呼ぶ費用は削る事が出来ます。これは出社についても言うことが出来ます。多くのビジネスはペーパーワークで書類などを処理するのが基本ですし、e-mail等の使用によって頻繁には会社に出社せずに仕事が出来てもどこでも出来るので、出社の為に使われる費用の内、会社側の負担が減ります。長期的に見ると、これは、人口密度を拡散させ交通渋滞を軽減する可能性もあります。しかも、人口密度が拡散すると、公害は大きく減り、交通がスムーズかつ少なくなることで、大気汚染も軽減されるのです。また、このインター

ネット上での会議のように簡単な健康診断をインターネット上で行うことや治療において難しい判断を世界中の専門医たちに促し、意見を聞くことなどもでき、医療の確実性が高まると期待されています。インターネットはこのように分野を問わず進歩を促す効果があるようです、そして、その中心には国際的な通信の容易さとその情報の速報性があります。教育の分野でもやはり、もっと国際的な交流を深める為に多くの中学校および高校がインターネットを使い始めたところが多いようで、これから多くの分野において情報交換の場となっていくでしょう。

～インターネットの危険性（改善すべき特性）～

これだけインターネットのメリットを挙げてもまだまだ可能性は多く残っているインターネットは確かに多くの企業や研究者、個人の興味を集め期待が大きいのですが、私は世間の（マスメディアの）評価は適切だとは思いません。それは、この技術がダイナマイトのように大きな助けとなる可能性を持っていると同時に間違った使い方や誤動作した場合の危険性がきわめて高いと言うことです。しかも、それには色々な形があると言うことです。順番に問題点を挙げてみましょう。まずこの情報の通信および発信の為にネットワークの特徴として、速報性と国際性、そして容易性がありましたが、これらを全部合わせるとかなり素晴らしい情報ネットワークに見えますがこの容易性の為にこのネットワーク上に流れている情報は多種多様で、しかも嘘も誠も混ざっています。そして、多くの人が情報を流している為（ため）に、それだけ多くの情報がネット上にあり、一つトピックを取ってもそれこそ千や二千の情報源があったりするのではざらです。これだけの情報があってもどれが誠でどれがうそか結局見分けがつきにくく、肝心の情報を見逃すことも多く

あります。こうなると、結局はなくてもあまり変わらないような状態になりますし、簡単にその情報を世界中に広めて、一時的に世界を混乱させることも可能になるのです。通販にも問題があります。この通販は大体的場合インターネット上で品物を選び、そして、注文書をSSLと呼ばれる暗号化を施して通信を行うサーバー上で個人の情報、オーダーの商品番号等とともに、カードナンバーを販売元に送るのですが、やはり、人間の作ったものなので、故意にこのセキュリティを破り、カードナンバーを悪用したりされる可能性が常にあるのです。しかもこれには実例があり、SSLが一人のハッカーによって破られたことがありますし、高校生がCIAのセキュリティコードをたまたま破ると言うような事件まであります。他にもインターネット上には最初から犯罪をする為に造ってある偽装通販ページなるものさえあるし、合法的に認められていない商品（国の間での差によって起こる）が外国のページでは売っていたりします。これだけ見ても、カードナンバーや個人情報を送るインターネット通販は犯罪の起こりうる場所だと言う問題があります。また、インターネットをフル活用して働くようになると、会社は従業員を減らせまし、販売店なども売り子などを雇わずにすみ、雇い主達は安く上がって良いのですが、この方針を採る会社が増えるに連れ、仕事が減り、失業者が増える可能性が十分にあると思います。その代わりにサービス業が増えたりするなどの副産物は増えるかもしれませんが、失業者が増えるのは止まらないと思います。またインターネットでの大きな問題として、コンピューターウィルスがあります。これには多くの種類があり、インターネット上で流れ出すとなかなか駆逐されにくいと言う問題があり、すでに大きな問題になっているコンピューターウィルスはインターネットが拡大するに連れその深刻さと破壊力は大きくなります。これに

よってY2K問題が解決しても、銀行のコンピューターを含める社会で重要な役割を持つコンピューターは常に危険にさらされているのです。これだけ問題があり、犯罪やハックそしてウィルスの流出があふれているインターネット上にはそれらを取り締まる警察組織はありません。せいぜいサーバーや契約プロバイダーごとにシステム管理者がいて、システム上に異常が無いかをチェックしているほどで、組織的な犯罪を取り押さえるような有効な管理システムが無いのです。しっかりしたインターネット警察が組織されずにインターネットが公共の場になれば犯罪が頻発するのは確実でしょう、そして、これについてマスメディアが何も言わないのは問題だと思います。どう問題かと言うと、もしインターネットがこの調子で拡大しつづけ、生活の重要な一部を占めるようになった時、インターネットを使えば組織的なテロ活動に重要な情報操作や、混乱を故意に巻き起こし経済を操作するなどの違法行為が起こった場合、もしくは大きな範囲でウィルスが広がったり、ネットワークが不通になった場合対応が出来ずに大混乱になる可能性があるのです。また、野心的な国が、他国を攻撃する手段としてもインターネットは「有効」で、世界的なネットワークを広げるにはそれなりの国際的な警察組織が必要なのです。

～理想の情報通信システムを目指して～

人間が道具なるものを使い始めて数千年、人は多くのものを作り出してきました。そして、その上で新しい文化を築きあげ、人は他の動物とは明らかに違う存在となっています。多くの人は服を着、家に住み、「新技術」なるものを惜しげもなく使い生活を営んでいます。そして、そこには常に通信方法がありまた。この通信があったからこそ人の文化は交わり変化を続けてきました。そして、効率の良い通信方法が現れる

たびに文化の交わりは加速的に行われてきたのです。文化の交わりによって人は変わり、新しい発見があるのです。今、インターネットは確実に人々の通信における国境を取り払っています。そして、それによって新たな国際理解が芽生え技術の進歩が加速することは誰もが期待していることでしょう。しかし、マスメディアも関連企業も国も誰もがこの新技術の危険性を軽視しているようです。しかし、忘れてはならないのが、大きな発展を遂げるたびに大きな問題が浮かび上がるという事です。ダイナマイト、そして原子力がそうであったように。だからこそ、期待を持つ心を抑え、この21世紀のダイナマイトによって起こりうる「破壊」を事前に抑えるために、出来るだけの事をしておくべきだと私は思います。これは、どの「発展」においても同じで、安全性を考えてこそその新技術であり、理想の情報通信システムなのだと私は信じています。もう一度言います、インターネットは21世紀のダイナマイトなのです。

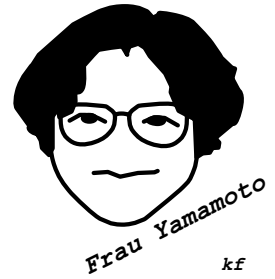
第6期生卒業論文 題名・著者一覧

色彩ライフスタイル	阿古江文菜	超合金	小林瑠実
地学とは？	浅井孝則	アトピーの治療	児玉智史
地雷と共に生きること	浅井祐未	子供の気持ち	古谷直子
波動について	榎原匡俊	高3卒業論文	工藤里紗
ル・マニア革命	藤本悠美	「わたし」と「ワタシ」	三木万里花
お腹の中の赤ちゃんにとっての音楽	藤田宏美	「告白」	宮崎寧菜
転校生	福永恭子	サッカーの20世紀を振り返って	水谷啓之
色・人・環境	花井美保子	「自由」ということ	仲村篤人
思い出、出会い、すべて宝物。	橋本恵子	「国際化」	中村朱里
ジョン・レノン	橋本隆史	従軍慰安婦問題が持つ数々の面	中谷多美子
ワインについて	服部佳那子	情報化の光と影	成田直子
脳の話	飛弾野 純	これであなたも一流選手？！	西田佑子
バスケと呼ばれるスポーツ	平野正則	核	埜々内政之
日本リーディングサイアー史	一柳貴章	インターネット	奥野泰弘
CBS：秘書	堀江恭子	メキシコでの暮らし～環境問題～	澤瀉久雄
ダイオキシソ	細見有希	日本人の持つ日本人論	小野有理
ベトナムの経済開発と時間観	今泉レベッカ小百合	神風特攻隊	太田清子
私の好きな本五選	井上愛子	一期一会	蔡 岳強
「それはとても晴れた日で」	乾 奈津子	翻訳書の功罪	佐藤真悠子
神と呼ばれた男	入山聡之	日本の国際化 - 日本人論をふまえて -	佐藤友香
ドラッグのありかた	石田健次郎	エコロジーについて(地球温暖化対策)	清水啓太郎
「楽しく生きるには...」	石塚美紀	ゼロの世界	菅 保雄
翻訳書の功罪について	伊藤いづみ	マザー・テレサ	高島美樹
私の経験した日本とアメリカとの違い	岩見馨里	幕末について書こうと思う	田村理恵子
松坂大輔が凄い理由	垣内卓也	犬の不思議な特徴や行動	谷垣 健
私にとってのOIA	郭 加奈	「西洋音楽史」	栃木まどか
少年犯罪とその社会背景	苅野美早子	出会い	東條真紀
『21世紀における日本の役割』	桂 初奈	ヒーローウルトラマン 辻 雄輔	
翻訳書の功罪について	川出 亮	"でかかいじゅう"との闘い	和田佳子
日本における「国際化」と「平成鎖国」の概念	河井美智子	中田英寿・日本をフランスに導いた男	山崎浩平
私の高校生活とバレー	木田賀子	「環境ホルモン」と「ダイオキシソ」の作用	依藤 剛
大学受験in Korea	金 恵栄	我が輩は建築家である	吉川彰布
アニメの在り方の変化	金 洸玄		
「ある宗教家」	金 聖恵		
動物を飼おうかな...と思っている方々へ	北野絵奈		

フライジング
<連載> ドイツFreisingからこんにちは!

夕焼けに笑う

山本美千代
国語科



「君は、ひとりで大きくなったような顔をしているねえ。」

二度目の大学院入試で、なんとか合格した私は、お世話になったM教授に挨拶に行きました。そのとき、先生はそうおっしゃったのです。
「はあ？」

私は、なんと答えていいのかわかりませんでした。その前年、大学での四年が終わろうとしていた時に、就職試験は一つも受けず、冷やかし半分で受験した地方公務員試験はもちろん不合格。とりあえず受けてみた大学院入試は、当然、門前払い。これからどうやって暮らしていくのか、全くなんの展望もないまま、卒業だけはしてしまった、こんなどうしようもない学生を、先生は「研究生」として拾って下さったのでした。先生にとっては、とんでもない災難としかいいようがありません。

先生の頭痛の種となったことなどに介さず、私の方は、「要教員免許」という条件を頭から無視して、(大学時代には、教職課程も受講していませんでした。)大きな声と堂々たる(ただもう元気がいいだけの)模擬授業が評価されて、某予備校に非常勤講師として採用され、なんとか大学院浪人の一年間をしのぐことができたのでした。その一年間に、大学の四年分を質・量ともに上回るほどの勉強をしたような気がします。それは、いかに大学時代に勉強しなかったかという証左にすぎないので、自慢げに鼻をふくらましてはいけません。でも、本人としては、一生懸命勉強して、親の援助なしに、なんとか大学院に合格できたことが、それはもう嬉しかったので、きっと、「天上天下唯我独尊!」という顔で教授の前に立っていたので

しょう。

「電話じゃなくて、ちゃんと家に帰ってご両親に報告しなきゃだめだよ。」

先生はさらにそうおっしゃいました。にこにこ微笑んでおられましたが、有無を言わさぬ断固たる口調でした。

「はい・・・。」

他に、なんと答えられるでしょう。でも、どうして先生は、私が電話で報告するだけですまそうとしていることをご存知だったのでしょうか?

久しぶりに帰省した私を迎えてくれたのは姉でした。上がりがまちで靴を脱いでいると、「その足で先にお墓に参ってきて。お地藏さんも忘れんように。」

「ええ?なんでやの?もう遅いのに。」

「とにかく、行っといで。」口答えを許さない、厳しい命令口調でした。

こういう時は素直に言うとおりにした方がいいと経験上わかっていたので、私は言われたとおりにお線香を持って自宅から自転車で10分ほどのところにある墓地に向かいました。区画整理をする前にばたばたと建てられたお墓が入り組んでいるので、我が家のお墓に近づくのは至難の業なのですが、なんとかご先祖様にお線香を手向け、合格の報告をした後、いつものように、お地藏様の方にもお参りに行きました。

この墓地には、大小20体近いお地藏様が粗末な板葺き屋根の下に安置されていました。私たちは、子どもの頃からお墓参りのたびに、お地藏様にもお参りをするよう習慣づけられていました。

お地藏様にお線香をあげては合掌していましたが、それはあくまでも習慣づけられた動作で、敬虔な信仰心からのものではなかったと思います。その時、ふと、お地藏様の「よだれかけ」に目が止まりました。(あれは、本当はなんという名前のものなのでしょう。私たちは、ただ「よだれかけ」としか呼んでいなかったのですが、お地藏様の首に巻かれている赤ちゃんの食事用エプロンのような布です。)

すべてのお地藏様が、真新しい赤いよだれかけをしていました。そして、その一枚一枚に「合格祈願」という文字と、見まがうことのない私の名前がくっきりと墨書されていました。

母は毎日、朝夕の墓参を習慣にしていました。もちろんお地藏様にもお参りします。

大学を卒業して、やっと就職かと思いきや、親の言うことなどちっとも聞かない娘は、まだ学校に行くという・・・。ただただ地道に働いてきた昔気質の母にとっては理解できない娘の「奇行」でした。家にも寄りつかず、何をしているのかさっぱりわからない娘が、またわけのわからない試験を受けると聞いて、母にできることは、神仏に祈ることだけだったので、おそらく、神も仏も信じていないであろう不心得者の娘を思いながら。

お地藏様の前で合掌しながら、私はまざまざと母の姿を思い描くことができました。もう何年もまともに話をしたこともなく、年に数えるほどしか帰省せず、ただもう自分のことしか考えていない身勝手な娘のために、赤いよだれかけをこしらえて、奉納し、祈る母の姿に、私は素直に頭を垂れて、合

掌するしかありませんでした。

神仏のご加護があって合格したと母は信じていたでしょう。そして、もし母がそれをことばにすれば、かたくなな私は、そうではなくて、自分が努力したから合格したんだと言いつのったことでしょう。

しかし、この日、帰宅した私に、母はひとこともお地蔵様の話をしませんでした。私も、お墓に行き、お地蔵様にお参りしたとは言いませんでした。姉もそのことについては黙っていました。いつものように、そそくさと夕食をすませ、世間話をした後、私は自分の小さなアパートに戻っていったのです。その日も、その後にも、私の口から、「ありがとう」という感謝のことばが出ることはありませんでした。そして、十年後に母は亡くなりました。赤いよだれかけの話は、お互いに一度も口にすることはありませんでした。

新年の新聞で、久しぶりに恩師の写真を見る機会がありました。小さなコラムで宗教教育についてコメントを寄せておられたのです。20年前と変わらない、先生の声が聞こえるような気がしました。

「君は、ひとりで生きているような顔をしているねえ。」

でも、20年分「おとな」になった私は、相変わらず間抜けな顔をしながらも、先生の問いかけになんとか答えてみることにしました。

「いいえ、先生。そんなふうに見えるかもしれませんが、そうではありません。ひとりで暮らしていても、ひとりで生きているわけではありません。自分では気がつかなかったり、思いが及ばないことも多いのですが、いつも誰かがどこかで私のことを心にかけてくれているのです。だから、故郷を遠く離れて、ひとりで暮らしていても、私はいつも元気です。赤い夕焼けをみると、むくむくと幸せな気持ちがわいてきます。この同じ夕焼けを私が大切に思う人たちも見ているからです。面と向かっては恥ずかしくて言えませんが、いつも「ありがとう！」という気

異動のお知らせ

< 退任 >

国語	山本美千代	英語	東 眞理子
	中村弥恵子	生活科学	松浦眞知子
書道	佐々木美智子	事務	中村勇雄
数学	稲村美範		山下麻衣子

今後は卒業生の気分で

東 眞理子

英語科

この度、千里国際学園を退職することになりました。長年にわたり多くの方々にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。八年間本校にりましたが、今ふりかえると、学園開校前から開校後二、三年にかけての怒涛のような時期がなつかしく思い出されます。めったに巡りあえない貴重な経験をさせていただきました。その後学園は着実に充実し学校らしく安定してきましたが、今またカリキュラムの改変という新しい段階を迎えています。一定の落ち着いた中から、よりよい可

能性を求めて変化する柔軟性を持ち続けられれば、学校にとっても人にとっても理想的ではないかと思えます。本校もすでに卒業生を数回送り出しました。新しい世界に飛び出していく生徒たちを見るたびに、なんだか取り残されたような、うらやましいような気持ちがしましたが、この度私も新しい方向に踏み出すことにしました。今後は卒業生の気分で本校のことを思い出すことと思います。新たな試みが実を結ぶよう陰ながら心よりお祈り申し上げます。

持ちでいっぱいです。素直に「ありがとう」と言えるまでには、あと20年かかるかもしれませんが、ひとりで生きているわけではないと気づかせてくれるすべての人に、感謝しています。本当にありがたいと思っています！（ただ、その感謝の気持ちが顔に出ないんですよねえ・・・）」

そんなわけで、私はいつも赤い夕焼けを見ると、大きな口を開けて笑っています。夕焼け空に「ガハハ！」という声が聞こえたら、それは私の「ありがとう！」です。また、いつかどこか

でばったりお会いする日を楽しみにしています。その日まで、お元気です！

山本先生は、1997年8月よりドイツの Bavarian International School に2年間勤務され、その後本学園に戻られる予定でしたが、今後も引き続き同校に残られることになり、本学園は1999年3月をもって退職されることになりました。

話題
情報
連絡

中等部一般入試 実質倍率は約 4 倍

中等部60名・高等部35名が合格

海外・帰国教育入学センター

昨年12月より本年 2 月にかけて行われました千里国際学園中等部・高等部の99年度海外・国内入学選考の結果をお知らせします。帰国生入試のA選考は海外現地校出身者、B選考は海外日本人学校出身者、S選考は本校が指定した海外日本人学校出身者の中で推薦を受けた生徒を、また一般生入試は国内の小学校・中学校（大阪府内公立中学校を除く）出身者をそれぞれ対象としています。

中等部・高等部1999年度海外・国内入学選考結果

()内 女子

中等部		志願者数			受験者数			合格者数		
		海外選考	国内選考	計	海外選考	国内選考	計	海外選考	国内選考	計
帰国	A選考	4 (3)	25 (15)	29 (18)	4 (3)	24 (15)	28 (18)	4 (3)	22 (15)	26 (18)
	B選考		5 (4)	5 (4)		5 (4)	5 (4)		3 (2)	3 (2)
	S選考	3 (2)		3 (2)	3 (2)		3 (2)	3 (2)		3 (2)
	帰国計	7 (5)	30 (19)	37 (24)	7 (5)	29 (19)	36 (24)	7 (5)	25 (17)	32 (22)
一般			108 (63)	108 (63)		106 (61)	106 (61)		28 (17)	28 (17)
合計		7 (5)	138 (82)	145 (87)	7 (5)	135 (80)	142 (85)	7 (5)	53 (34)	60 (39)

高等部		志願者数			受験者数			合格者数		
		海外選考	国内選考	計	海外選考	国内選考	計	海外選考	国内選考	計
帰国	A選考	13 (7)	12 (8)	25 (15)	13 (7)	12 (8)	25 (15)	11 (7)	7 (5)	18 (12)
	B選考	10 (5)	3 (2)	13 (7)	10 (5)	3 (2)	13 (7)	8 (4)	2 (2)	10 (6)
	S選考	3 (2)		3 (2)	3 (2)		3 (2)	3 (2)		3 (2)
	帰国計	26 (14)	15 (10)	41 (24)	26 (14)	15 (10)	41 (24)	22 (13)	9 (7)	31 (20)
一般			10 (6)	10 (6)		9 (6)	9 (6)		4 (3)	4 (3)
合計		26 (14)	25 (16)	51 (30)	26 (14)	24 (16)	50 (30)	22 (13)	13 (10)	35 (23)



THE BOOKSTORE NEWS

March 1999



ブックストアでは文房具の他、阪急バスの回数券、ラガールカード、テレホンカード等も取りそろえて皆さまのお越しをお待ちしています。

生徒会活動報告

HS(9～12年生)生徒会

苗村華子
高校2年

新しい年を迎え、HS生徒会も一段と活気をおびてきました。新年一番始めの活動として、まず行われたのは京都の田辺にある、同志社国際高校との交流でした。OIAとOISの生徒会員と、OIAから高三女子四名と、高二男子二名、又OISから十二年生三名が参加してくれました。1月16日に、同志社国際高校を訪れました。同志社国際では、二時間ほど授業を受け、その後校内見学、昼食をいただきその後パネルディスカッションで同志社国際の授業を受けての感想や意見などを出し合って話し合いました。又、翌週の1月18日には同志社国際の高校三年生が千里国際に訪れ、OIAとOISの授業を受けました。そして、最後の一時間は、OISの生徒も交えてディスカッションを行いました。初めての企画でしたが、とても良かったのでこれからもこの交流を続けたいと思います。

2月12日金曜日には、シアターにてバレンタインダンスパーティーを行いました。今回は、ライブを取り入れたのダンパでした。

今年も、来る5月22日に学園祭があります。また、詳しいことが決まったら追って連絡しますので、クラスで今年の出し物などを考えておいて下さい。

MS(6～8年生)生徒会

堀桃子
中学2年

今回は、今年の2月12日にカフェテリアで開催したダンスパーティーのについて報告します。今までにも、いくつかのイベントを行ってきた中部部生徒会ですが、今回のダンスパーティーはバレンタインも兼ねて行うという一大イベントでした。まずは、準備段階でポスター作り、宣伝、食品、音楽、音響機材などの色々な問題が出てきましたが、私たちにとって1番の問題は、同じ12日に行われる高等部バレンタインパーティがあるということでした。イベントが二つ重なったという理由もあって音響機材など、大掛かりなものはできなくなりました。また運が悪いことに前日は祝日のために学校が休みで、ミーティング等、打ち合わせが足りず当日は不安ばかりでした。しかし生徒会役員のほかに手伝ってくれた仲間がたくさんいてカフェテリアの準備は順調にすすんでいきました。食べ物の方も中村先生が小野原まで買いに行ってくださって食べ物のセッティングはなんとか予定していた入場時間には間に合いました。しかし1番重要な音響関係のセッティングが上手く準備出来ませんでした。ボネット先生が授業のあとにセッティングを手伝って下さいました。そのおかげで、開始を予定していた時間より20分も遅くなり、午後4時すぎに開始となりましたがたくさんのお客さん(おもにOIS、OIAの6～8年)に来ていただいて、食べ物(マクドナルドのマックナゲットと手作りポップコーン)も順調に売れていき、みごと完売できました。皆さんありがとうございました。音楽も何も問題なく、みなさんから借りたCDやMDをかけさしてもらい、最初からみんな大いに楽しんでくれました。その訳は、今回のダンスパーティーは毎年



行っているのと少し違い、男の子も女の子もドレスアップしていると入場料タダで、普段着だったら入場料が100円になるというルールを作ったからです。ダンスも後半に近づいたとき、ダンスクラブのみなさん(OIA8年の牛田圭さん、安田弥央さん、末吉なつ香、石橋さゆりとスペシャルゲストの12年浅井孝則さん)がすばらしい、目を見張るようなダンスを披露してくださいました。本当にありがとうございました。牛田さん浅井さんはダンスパーティーのために2日間という短期間で一生懸命練習してくれました。本当に盛り上げてくれました。

楽しい時間もあっという間にすぎ、ラストミュージックに、みんなもよく知っている"マカレナ"でダンスパーティーは無事に幕を閉じました。今回のダンスパーティーはCD、またはMDの盗難、紛失は無く問題も機材のセッティング以外はありませんでした。パーティーが終わった後も掃除を手伝って下さった皆様、急な企画にもかかわらず忙しい中、私達のわがままを聞いてくださった先生方、本当にありがとうございました。次のイベントもがんばりますのでよろしくお願いします。

Special Thanks to 原和久先生・中村亮介先生・Mr. Bonnett

春の図書館の予定

青山比呂乃

図書館

～3/19(金)	通常どおり開館 8:00am-4:45pm
3/20(土)～4/5(月)	閉館
4/6(火)～	通常どおり開館 8:00am-4:45pm

4月5日は、SIS（4月からの新校名の略称＝現OIA）の入学式ですが、蔵書点検後の整理のため、図書館は閉館します。6日の授業開始と共に開館します。3月8日以降は、4月6日までの長期貸出をします。貸出冊数は今までどおりですが、もっと借りたい人は図書館スタッフに相談して下さい。



寄贈された雛人形

蔵書点検ボランティアのお願い

4月1日・2日、年に1回の蔵書点検を行います。いつもどおり、是非生徒ボランティアの人に手伝って欲しいので、よろしくお願いします。

準備の都合があるので、3月19日までに、図書館スタッフまで申し出て下さい。丸2日間でも、半日でも結構です。時間は9時から12時、1時から4時で、昼食持参。飲み物などは出します。仕事の内容は、図書の整頓、バーコード入力、雑誌の移動などです。

お雛様の事

今年、OIA保護者のお知り合いの方から、7段飾りのひな人形セットを譲り受けました。立派な道具のついたしっかりしたお人形です。図書館では、毎年3月3日と5月5日に、それぞれひな人形と五月人形を飾ってお祝いし、日本の伝統行事をOIS小学生の日本語の授業中に説明したりしています。

今の日本の住宅事情では、なかなかお目にかかれない、全部そろったお雛さまで。国語や日本史の時間に勉強した平安時代（ひな人形）や鎌倉時代（鎧兜）の装束の模型としてもとてもよくできていますので、皆さんも、是非一度、よく見てみてください。手にとって見たい人は、図書館のスタッフに声をかけて下さいね。

BIRD MAN CLUB 速報 No.1

小俣こずえ

中学3年

第23回『鳥人間コンテスト選手権大会』に向けて、2月から本格的な活動が始まりました。大阪電気通信大学と大会参加経験のある指導者(社会人)との合同で参加する事は、一度インターカルチャでお知らせしましたが、そのチーム名が決まりました。その名も

『WIND PLAYING（風遊び）』です。今回は初めての参加なので、一番一般的な滑空機部門に出場する予定です。製作作業が始まる4月までは資金集めのための活動を中心に進めていきます。毎週末、大学で合同ミーティング＆活動を行っています。進行状態はポスターでお知らせ

しますので、それを見て興味を持った人は友達も誘って一度説明を聞きに来て下さい。また、先生方・御家族の方でも興味を持たれば大歓迎ですので、ぜひ声をかけて下さい。よろしくお願いします。

女子サッカー優勝！

インターナショナルスクールAPACトーナメント (2/3～7)

APAC Results:

Mark Pekin
Athletic Director

Girls Soccer APAC Champions 1999:

The varsity soccer team had a fantastic tournament in Korea and was able to defeat Canadian Academy in the final, 1-0. During the round robin games the Sabers team remained undefeated with 4 wins and 1 drawn match. The first game was played in -10 degrees with the girls warming to the task quickly to win 2-0. The weather warmed up a little from the first day and the girls continued to play excellent soccer to record strong victories against the other APAC teams.

This is a fantastic result for our school, the smallest of the APAC schools, as we compete against most schools that have a population of 1100 or more students.

Congratulations to Mr. Searle, the players and manager, for their hard work during the season and at the tournament in Korea.

Osaka 2 v Brent 0
Osaka 2 v Beijing 0
Osaka 4 v Shanghai 1
Osaka 3 v CA 0
Osaka 0 v Seoul 0

Championship game:

Osaka 1 v CA 0

Boys Basketball:

The boy's basketball team



優勝した女子サッカーチーム

traveled to Beijing and was able to visit The Forbidden City and The Great Wall before tournament play began. This sightseeing day was a highlight of the trip and gave the students a chance to relax and gain a little deeper understanding of China and its vast history.

The team finished in fifth place, defeating Shanghai in the round robin by one point and again in the playoff final for 5/6th place game.

Many thanks to Mr. Heimer and the players for their hard work during the tournament.

Osaka 47 v Seoul 88
Osaka 42 v CA 62
Osaka 26 v Beijing 66
Osaka 29 v Brent 51
Osaka 48 v Shanghai 47

5/6th place game:

Osaka 58 v Shanghai 53

Next APAC Tournaments:

Boys Soccer, Girls Basketball, Tennis at Brent, Manila April 14-18.

男子バスケットも健闘

Basketball in Beijing- Sabers Boys Team Plays in APAC Tournament

Peter Heimer
English

On February 2, 1999, ten Osaka Saber boys' varsity basketball players, two coaches, and one manager traveled to Beijing, China, for the 1999 APAC basketball tournament. Though the team did not win as many games as it had hoped, the Sabers played well, behaved well, and enjoyed their stay in Beijing.

On February 3, the day before the tournament started, the team visited the Forbidden City and the Great Wall. Though brief, the sightseeing trip allowed the players, coaches and manager to get a sense of the long, interesting history of China.

Tournament play began on February 4, and though the Sabers ran into tough competition from CA, Seoul, Brent, and eventual champions Beijing during the first two days, they played well on the final day to beat a scrappy Shanghai team twice to take the fifth place trophy. Christopher Tse, a Saber co-captain, was named to the all-tournament team in recognition of his fine defensive and offensive play, and his team leadership. Other standout players include the two other co-captains, Taku Harada and Christian Ciari. Ciari played in his final game as an Osaka basketball player, ending a long, solid career as a Saber.

In addition, the team was



健闘した男子バスケットボールチーム

awarded the sportsmanship trophy. As usual, the Osaka players behaved maturely and played fairly throughout the tournament, earning the praise of opposing coaches and homestay families. Their good behavior is a credit to Senri International School, and the players and manager are to be congratulated.

Monica Ueda, the lone female on the trip, performed her duties as team manager with her usual proficiency and skill.

Members of the Osaka Saber basketball team include Christian Ciari, Taku Harada, Christopher Tse, Kiyotaka Ito, Daisuke Inoue, Hiroyuki Ota, Minoru Ochi, Noah Reis, Harsha DeCosta, and Mark Carpenter. Monica Ueda was the team manager, and Pete Heimer and Mark Pekin coached the team.

千里国際学園のチームスポーツは大阪国際文化中学校高等学校(OIA)と大阪インターナショナルスクール(OIS)の2校で1チームを編成しており、この形態での参加を認めるインターナショナルスクール関西リーグとAPAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合等に参加しています。

<I.S.関西リーグ参加校>

カナディアンアカデミー(神戸)、マリストブラザーズ(神戸)、名古屋インターナショナルスクール(名古屋)、E.J.キング(佐世保)、M.C.ペリー(岩国)、千里国際学園(大阪)

<APAC参加校>

北京インターナショナルスクール(中国)、上海インターナショナルスクール(中国)、プレントインターナショナルスクール(フィリピン)、ソウルフォーリンスクール(韓国)、カナディアンアカデミー(神戸)、千里国際学園(大阪)

(注)「大阪セイバース(The Osaka Sabers)」は千里国際学園スポーツチームの愛称です。

タッチ・クラブ関西大会 2 位の快挙！

岡田憲志
保健体育科

2月7日の日曜日、本学園のタッチ・クラブは第8回関西タッチ大会に出場しました。おっと、タッチ・クラブのことをご存知ですか？ 以前にもインターカルチャで入部案内をしたことがあるのですが、「お触りクラブってなに？」という誤解がないように、すこし解説しておきましょう。日本ではタッチ・ラグビーと呼ばれており、タックルのかわりにタッチ（大阪弁でいうと“デン”ね）をおこなう鬼ゴッグとラグビーを合わせたようなスポーツです。安全で、しかも、運動量が多く、男女ともがプレーできるとても楽しいスポーツです。

今回の関西タッチ大会ですが、インターナショナルスクールの関西トーナメントやAPACとは違い、小学生から社会人までのすべての男女に開かれたものでした。クラスは2つ。出場資格にまったく制限のないエキサイティング・クラスと、成人男子（高校生以上）が4人以内で残りは中学生以下か女性しか出場できないというエンジョイ・クラスでした。中学生と高校生が活動しているウチは、エンジョイ・クラスにエントリーしました。実はこの試合、われわれにとって初めての公式戦、いやいや、初めてのゲームだったのです。しかし、われわれはそんなハンディにも動じることはありませんでした。この関西大会で3位以内に入賞し、全国大会に出場するという大きな目標があったからです。

さてさて当日、エンジョイ・クラスにエントリーしたのは合計10チーム。2つの予選リーグに分かれて総当たり戦で順位が決められ、それぞれの1位同士が決勝戦をおこなうという予定でした。われわれの目標は、もちろん予選1位突破です。そうすれば、全国大会出場がほぼ確実にな



るからです。ところが、ウチの予選リーグを見てみると、なんと、関西外大や日体大がいるではないですか。とくに日体大！なんといっても体育大の現役学生です。「東京の大学のキミらがなんで関西の大会にでてんねん！」という突込みを入れたくなるくらい強そうに見えるのですよ、これが。初戦の関西外大はなんなく撃破し、2試合目が正念場の対日体大戦。この強敵相手に11年生のキャプテン角田直樹や同じく11年生の時任隼平を中心に、スピードを生かした攻撃で撃破しました。やリー！「日体大が女子チームやったということは言わんとこな」と、こっそり誓ったわれわれでした。こうして、予選を全勝の1位で終えました。1位同士の順位決定戦は、スーパー・モンキーズという社会人の男女混合チーム。以前から活発に活動しており、大阪では常にトップのチームです。その強敵相手にもひるむことなく、7年生の木畑洋がトライを決めたり、9年生の柴田浩隆もあわやトライかという活躍で大善戦。おしくも1 - 4で負けはしましたが、将来

的には充分対等に競合できるという手応えを感じさせるいいゲームでした。

こうして、ほぼ全国大会出場を確実にした本学園タッチ・クラブは、月曜日・木曜日の3時45分から5時30分まで活動しています。ただいま、全国大会に向けて選手の強化中（とくに女子！）でありますので、興味のある人は一度体験入部してみてください。

箕面市民オリエンテーリング大会に33名参加

ランニングクラブ・トライアスロンクラブ他

馬場博史
数学科

2月28日(日)は、「第11回箕面市民オリエンテーリング大会」が教学の森野外活動センターで開催され、本学園から生徒・教員33名が参加しました。

オリエンテーリングとは、地図と方位磁石を頼りにいくつかのポイントを見つけながら山道を駆けめぐり、速さと正確さを競うものです。

森の中のため、細い坂道や階段が多く、走り回ると大変ハードなコースです。一部のチームが制限時間を過ぎててもなかなか帰らず、スタッフが迎えに行くというハプニングがあ

りましたが、なんとか全員がけがもなく無事に帰ってきました。

参加者は、明るいスタッフの方々から、競技中は励まされ、ゴール後は手作りの参加記念品をもらい、温かい豚汁のもてなしを受け、帰りには歌で見送られました。スタッフの皆さん、ありがとうございました。

教学の森野外活動センターでは、今後も3月20日の「星を見る会」をはじめいろいろな企画への参加者や、4月から活動できる大学生スタッフを募集しています。連絡はTEL0727-22-8110までどうぞ。

参加者が多数だったので入賞者のみ紹介します。

4 km団体の部

- 1 位 畑明広・横山聡司(中2)
- 2 位 野平志乃(高2)
・ Shunsuke Cho(OIS12)
- 3 位 藤本卓・金碩燦(中1)

4 km個人の部

- 1 位 馬場博史(教員)

涙のお話

松井尚子
保健室

春は親しい人との別れや、新しい人との出会いの多い季節です。卒業式や入学式に、いろんな思いが湧いてきてぼろりと涙する、なんてこともありますよね。さてこの涙、いったいどうして流れるのでしょうか。

涙は、その98.5%が水、あとはナトリウムやカリウム、アルブミンやグロブリンなどの塩類とたんぱく質でできています。ふだんは涙腺から一日0.6ccの涙がでて、目の表面をきれいにしたり、角膜に酸素や栄養を与えています。役割を果たした涙は涙のうに一時た

められて、鼻涙管を通して鼻に流れます。うれしい、悲しい、腹がたつ、などの感情が強くと、自律神経が刺激されて普段より多くの涙が出て涙のうにためきれず、外にあふれることとなります。これが「泣いている」状態ですね。

涙は鼻涙管を通して鼻に流れますから、泣けば泣くほど鼻も出てきます。西洋人は一般的に鼻涙管が日本人よりも太いので鼻がでやすく、泣くときにハンカチを鼻にあてる人が多く、日本人は逆に目にあてる人が多いといいますが・・・

ところで、悲しい涙は副交感神経

の作用で水分の多い、しょっぱくない涙ですが、くやしいときや怒っているときの涙は交感神経の作用でナトリウムの多いしょっぱい涙がでるのだそうです。涙にもいろんな「味」があるのですね。

ちなみにあくびをして涙が出るのは、顔の筋肉が動いて涙のうを押さえてしまうから。これはこぼれるほど出ないので、「うそ泣き」には使えないですね。(笑)

保護者会だより

【第9回定例会報告】

2月4日午前11時より会議室にて、第9回定例会が開かれました。

井嶋教頭先生より

・2月4日フォーラムの講演会に、授業の取り組みのひとつとして生徒も参加します。

・2月8日・12日、カリキュラムの説明会があります。

開講科目一覧を、家庭でも子供と一緒によく見てください。

・3月6日高校卒業式、生徒主催で司会も生徒によって進行します。

《執行部》

・1月20日、大阪私学振興大会に5名参加
・2月16日(火)11:00より、今後の保護者会活動についての話し合いを持ちます。

《ネットワーク委員会》

・3学期編入生の名簿発送

《ボランティア委員会》

・3月22日・23日、関西男子バスケットトーナメントのランチサービスをしました。

《広報委員会》

・インターカルチャ3月号の発行

・フォーラム講演会の取材をします。

《インターナショナルフェア委員会》

・"手芸サークル"について話し合い、"手芸サークル"は委員会に入らず、独立して活動することになりました。

・昨年度のインターナショナルフェアの決算は、学校との話し合いの結果がでてから報告します。

《各学年クラスマザー》

中3 卒業式について、生徒の話し合いの結果を待機中

高1 1月25日 2組クラス懇談会

2月6日 4組クラス懇談会

高3 謝恩会の準備中

バイマールヤンジンさん講演会

「チベットと日本—異文化をこえて」に出席して

2月4日(木)13:30からシアターにて、バイマールヤンジンさんのトークと歌による講演会がありました。

バイマールヤンジンさんは声楽家で、国立四川音楽大でオペラを学び、四川大に留学していた斎藤氏と結婚されて日本にこられました。「世界の舞台に立ちたい」という夢をもち続け、音楽活動をされています。また、ほとんどの子供たちが学校に行けないチベットの遊牧地区に、学校を建てたいという夢のためにも、大変努力されています。チベット学校建設推進協会(06-6871-5561)を設置され、実現にむかって頑張っているらしいです。

バイマールヤンジンさんは学校での講演もされており、我校で72校めだそうです。2時間の講演時間は、私にとって楽しい時間となりました。習慣、文化の違いから生まれる日常のエピソードをお聞きし、違いがあるということに価値があるのだということを、再認識したように思います。

チベット人としての、ふるさとチベットに対する深い思いや民族の誇り、自然に対する感謝の念や畏敬の念が、お話や澄んだ歌声から伝わってまいりました。

チベット民謡には、日本の民謡にも似たようななつかしさ、あたたかさを感じました。物が豊かになったものの、暗いニュースばかり耳にはいつてくるこの頃の日本。バイマールヤンジンさんが歌って下さる日本唱歌の「ふるさと」を聞きながら、日本人は幸せかしら、未来の多くの子供たちに何を伝えていけばいいのかと、自分に問いかけていました。日本人が見失いかけた心を、チベットの自然の中で生活している人たちは、持ち続けているのでしょうか。言葉も大切なコミュニケーションですが、生活の中で生まれた音楽は、直接心にふれ、感動を与えてくれました。バイマールヤンジンさんのご活躍を期待しております。

(広報委員 橋本ゆう子)



<保護者OBからの風>

教育方針の成果は卒業生に表れる

藤本真理子

第5期生保護者

アメリカの学校生活とOIAを振り返って...

息子の大介がOIAに編入したのは1991年9月、OIAが開校した年でした。その時息子は中学1年生、中2～高2まで帰国子女ばかり、初めて一般性との合同の学年でした。息子はその直前までニューヨーク郊外のパブリックスクールに通学していました。アメリカでの学校生活では日本との教育の違いに驚かされることが多く、数え上げるときりがありますが、その一つに父母たちのボランティア精神がすごいと感じました。今でこそ聞き慣れたと言うより聞き飽きた言葉ですが、私たちが渡米した1986年ごろには日本にはボランティアというものの自体の存在があまりあやふやな時代でした。

父母たちは積極的に学校をサポートし、数多い学校行事を支えています。休日の課外活動、スポーツなどコーチも父母たちと地域ぐるみで協力しあい、日本のように仕事以外は何事にも不参加の日本の父親との違いに驚きました。また教師も一人一人の子供の性格から家庭環境から全て把握しており自分の教育にプライドを持っているように見受けられました。(校長はドクターの称号を持っており絶大な権限を持っていました。)

ある時、子供の成績が下がったので私はどうすれば良いのか尋ねたところ、「教育は私達に任せてほしい。これが私達の仕事だから、貴女は暖かいリラックスできる家庭を作るのが仕事です。」という返事が返って来ました。日本の学校では低学年の場合、家で宿題を見てやってほしいとか、漢字の書き取りをさせるとか言われていた私はその言葉

にとっても満足したのを覚えています。

少人数で個人尊重の教育、自由の中にも公共の場でのたしなみ、マナー、幼い頃から自分の意見を発表し、また人の意見をちゃんと聞くアメリカ式の教育に感心させられる事が多く、又学校の方針も時には厳しく(普段自由だが違反すれば罰は厳しかった)時には暖かく私達に接してくれました。日本の教育が全て悪いと言っているのではありません。日本に無い素晴らしいものを目にして戸惑いながらもなるほどと納得させられることが多かったのです。

日本の公立の場合はどうでしょう。役員を決めるのになり手が無く大変です。又、参観日等学校行事にはほとんどが欠席。先生と父母との意志の疎通は無く、むしろ反目しているようにさえ見受けられます。子供は学校に預けたら後は学校の責任と言わんばかり、学校は保育園ではありません。いじめ、教師の問題等アメリカの学校に転入させるよりも帰国後日本の学校に転入させる方が難しいと頭を抱えておられる海外駐在員家庭の声をどれだけの日本の学校が理解されていることでしょうか。

日本の公立中学校に疑問を持っていた私は帰国後すぐにOIAに息子を受験させ、編入させていただきました。その年度は何しろ開校したばかりの学校で何もかもが初めての試みでした。皆で自分達の意見を出し、子供達主導の行事に親も陰ながらサポートしました。先生と父母達が協力しあって新しい学校の成功に向けて試行錯誤を重ねながらも積極的に参加し、多くの父母がボランティアを希望し、楽しみながらお料理をしたり、学校ひいては子供達の

為に親子で行事に参加出来た事、とても良い思い出です。それらの行事を通じて子供達もそれぞれに自分の能力を発揮したり、新しい発見があったりして成長していくのを見るのが楽しみでした。ミュージカルやディナー等もあって思いきり着飾って夫婦で参加した事も今はとても良い思い出です。父母達で地域のネットワークを作り一年に1～2回集ってワラビ取りに行ったり、クリスマスリースを作ったり、学校を通じて親同志が心ゆくまで楽しみました。そうこうしながらも進学の悩みや生活面の相談など得ることの多い集まりだったような気がします。ともすれば自由＝やりたい放題、非協調性、自己主張＝エゴというように履き違えられやすい日本で教育をいかにうまく導いていくか困難ではありますが、学校が単に学力をつけさせるだけの場ではなく今までの日本になかった生徒の自主性を重んじる真の国際学校として日本と海外の教育の良さを合わせ持った学校であってほしいと思います。

OIAの年数が経ってくるとに日本の学校らしくなっていくのは少し淋しい気がします。息子は大学に入学してOIAの生徒達がいかに優秀であるかがわかと申します。学校の教育方針の成果は卒業生に表れる事でしょう。OIAが益々発展していくことを望みます。

< 保護者OBからの風 >

心に残る5つのリスペクト

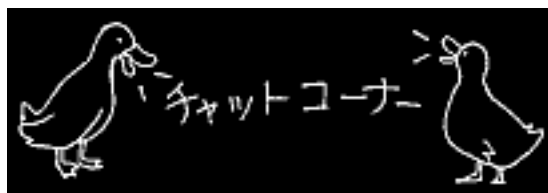
前川 比佐子

第4期生保護者

今や娘も大学2年生となり、千里国際学園には卒業以来ご無沙汰でしたのにインターナショナルフェアに参加することになり久しぶりに学園を訪ねることになりました。その日はOIA、OISがコミュニケーションするイベントの日であった訳ですが、OIA・OISが併設されている千里国際学園ならではの雰囲気が醸し出されていました。

娘は帰国生でしたから、これ程恵まれた環境の学校は他には見当たりません。しかし開校時からお世話になっていましたから生まれたての千里国際学園から見て参りました。裏にはスタッフの方々の多大なるご苦勞を感じて参りました。風の便りによりますとOIA、OISが歩調を合わせるために学校のシステムが変わったとか……。これも千里国際学園が7年余りを経過しての結果の選択であったでしょうし、ここに到るにはかなりの議論がなされたことでしょう。常に開校時の理念を思い出し理想に向かって進んで行って欲しいものです。スタッフの熱意は必ず伝わるでしょう。その一例に先日自宅を離れて下宿している娘が帰ってきて申すことに「大学の先生はご自分の研究にばかり熱心で学生を教育してないよ。高校時代の先生の方がずっと生徒の教育に熱心だったよ。」とぼやいていました。この言葉からも先生方の熱意は生徒がしっかり受け止めていたことが判ります。

そしてOIAの教育方針である知識注入型でない授業の展開は必ずや自ら考える生徒を育てていることでしょう。また心に残る5つのリスペクトは学校を卒業してもいつまでも心に残っていることでしょう。（親である今の私にも当てはまるのです）こんなことを考えながら6年間も千里国際学園で過ごせた娘の幸運を感じずにはいられませんでした。



20年×3回目の人生

「人生80年」を「20年×4回の人生と考えよう」とおっしゃったのは京大数学の森毅先生ですが、3回目の人生の真っ只中を生きている今、自分の中の色々なことが1回目の人生に帰っていくことを感じています。

中高生の頃、気が多くてやたらとクラブのハシゴをするのを、求道的な親に叱られていましたが（千里国際だったら良かったのに）、1回目の人生の最後の頃には、なぜか「メシの食えるひとつの専門以外に、ひとつの語学・ひとつのスポーツ・ひとつの楽器ができるようになるべきだ」と思いこむようになりました。

何となく慌だしかった2回目の人生を終え、「林住期」とまではいなくても、ゆったりと3回目の人生を楽しもうと思うとき、自分が保ちたいと願うライフスタイルは、あの時の理想像に、ピッタリではありませんがかなり一致します。「語学」には「国際交流」も含まれると思うようになり、スキーはテニスに変わり、ピアノは歌に変わりましたが、やろうとしていることは、若いときの自分と驚くほど同じなのです。

「人生とは自分探しの旅である」。色々なことをバランス良く楽しめる土台を作ってくれた親に、感謝するこの頃です。

(Y・N 10年生保護者)

3月3日の思い出

梅の侯も良いですが、やはり3月の声には待ち遠しき春の到来を感じます。

2年前の3月3日、明広の友達3人を学校帰りに招きました。「甘酒をごちそうするから」と。放課後バスケットで遊んでから、彼等はやってきました。男ばかり4人。取って置きひなあられはあっという間になくなり、ほんのり桃色の甘酒は、ああだ、こうだと賑やかにしゃべりながら、とうとうお鍋は底をつきました。真っ赤になってしまった人。そうでもなかった人。「畑君ちで甘酒を飲んだって言ってね。」「ありがとうございました。」と言って、いつもの悪（わる）も妙に神妙に帰って行った気がします。何でも無いのに、娘共々楽しいひとときでした。

あれから2年、会う度に大人っぽく、それぞれにおしゃれな中学生となり、私は頼もしく思っています。（我が子は除く）

(畑 真理 8年生保護者)



みなさんもこの「チャットコーナー」にどしどし投稿して見ませんか。日々の暮らしのこと、旅のこと、最近出会ったいい話、こわい話など何でも結構です。広報委員が、インフォメーションセンター横の投稿ボックスまでどうぞ。

3 ~ 4 月行事予定

- 月 日 曜
- 3 12 金 関西リーグ女子バスケットボール(13日まで)
- 17 水 編入選考
- 19 金 冬学期終了・中学校卒業式
- 4 05 月 入学式
- 06 火 春学期開始
- 14 水 APAC男子サッカー女子バスケット男女テニス
(17日まで)
- 29 木 みどりの日・登校日

Individualized Help Available for English Writing

Joy Kaplan

English

All students are welcome to come to room 307 after school for individual help with writing. A teacher will be available from 3:45 to 6:00 on Monday, Tuesday, Wednesday and Thursday. Questions? Please see Ms. Kaplan.

編集後記

卒業式を終えて「心にぽっかり穴の空いたような」気分です。教師生活19年で5回目の高3担任でしたが、中学校から6年間を見てきた学年は初めてです。先日、みんなの6年前のあどけない写真を見ていて、着実に時が流れていることをあらためて感じました。彼らが国語の課題で書いた卒業論文を読んでも、本校での成長のあとが強く感じられます。今号には3作品しか掲載できませんでしたが、できれば卒業論文集で他の作品も時間をかけてゆっくり読んでみようと思います。卒業後もこんな力作をインターカルチャに投稿してくれることを願っています。

記事、短信、感想など、E-mailでhbaba@sisf.minoh.osaka.jpまでお送り下さい。バックナンバーの抜粋も本学園ホームページでご覧いただけます。URL <http://www.sisf.minoh.osaka.jp/>

編集：馬場博史(数学科) 保護者会だより記事：保護者会広報委員

Edited by Hiroshi Baba(Math.) Cooperated by the Public Information Committee of OIA Parents Association Drawn by the students of Illustration Club

Senri International School Foundation (SISF)

Osaka Intercultural Academy (OIA)

= "Senri International School (SIS)" from Apr. 1999

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nish, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 0727-27-5050 FAX 0727-27-5055

学校法人千里国際学園(SISF)

大阪国際文化中学校・高等学校(OIA)

= "千里国際学園中等部・高等部(SIS)" 1999年4月より

大阪インターナショナルスクール(OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話0727-27-5050 FAX 0727-27-5055

年間発行予定と主な内容 ()は発行時期

5月号(上旬) 入学式、大学等合格状況、関西リーグ、APAC

6月号(中旬) 学園祭、関西リーグ、スポーツ表彰式

10月号(上旬) 夏の宿泊行事、夏の諸活動

11月号(中旬) 運動会、APAC、玄関コンサート

2月号(上旬) オールスクールプロダクション、関西リーグ

3月号(中旬) APAC、入試結果、卒業式・卒業生へ贈る言葉

[注] 関西リーグ、APACはスポーツ公式試合

千里国際学園では、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う大阪国際文化中学校・高等学校 Osaka Intercultural Academy (OIA) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とが、同一敷地・校舎内に併設されています。

本学園は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等をOIAとOISが合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、この形態での参加を認めるインターナショナルスクール関西リーグ等の公式試合に参加しています。このため、2校合同の授業・行事・活動等は、インターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学2年生)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。